

VOL.

活動
年鑑

III

社団法人
日本技術士会
青年技術士
交流実行委員会

2008年6月

2A(26期)

(2007年6月～2008年5月)

contents

巻頭言 政策委員会委員長 吉田克己 1	H19年度活動報告 青年技術士交流実行委員会 委員長 時合健生 2	ワーキンググループ 活動報告 4
支部活動報告 18	寄稿 修習技術者支援実行委員会 委員長 小林進 26	月例会報告 27
寄稿 国際特別委員会委員長 畑尾成道 48	寄稿 日韓技術士会議実行委員会 委員長 中山輝也 49	国際交流 活動報告 51
寄稿 防災支援委員会 日韓技術士会議実行委員会 宮原 宏 71	メンバー紹介 73	その他活動 89

日本技術士会 副会長・政策委員長
吉田 克己

青年技術士交流実行委員会の前身である青年技術士懇談会が発足したのは、1959年（昭和34年）7月です。技術士会内の青年商工会議所的な役割からスタートして、来年、2009年7月に発足50周年を迎えます。この50周年を迎える節目の時に、青年技術士交流実行委員会の皆さんが日本技術士会の新しいシンボル・マークの選定に関わったことは、時宜を得たいへん意義深いことと思っています。時代の変遷とともに、また日本技術士会の発展とともにその位置づけや期待は変わりつつありますが、若手技術者相互の交流を通して切磋琢磨していこうという活動の原点は今も昔も変わっていません。

全国の若手技術士と技術士補、そして修習技術者を構成メンバーとした青年委員会の委員長、副委員長、委員ならびに委員補佐の皆さんの活動には若者らしい情熱を感じます。

毎年11月頃にASEAN加盟国で開催されるCAFEO / YEAFEO会議へは2003年から参加実績を積重ね、技術発表などを通じて国際交流の輪を広げています。特に派遣代表者の選考にあたっては、公募による公正な選考手続きを実施しています。これは会員に対する参加機会均等の原則からもすばらしいものです。このような雰囲気は青年技術士交流実行委員会の魅力の一つなのではないでしょうか。

CAFEO / YEAFEOを通じて知り得た海外の仲間との人脈も青年技術士交流実行委員会の組織の財産として定着してきました。オーストラリア青年技術者との新しい交流企画「日豪若手人材交流プログラム」の試みも芽生えています。また、日韓技術士会議における交流サッカー開催支援活動などを含めて、国際交流の場において青年技術士交流実行委員会が果たす役割は今後ますます大きくなるものと期待しています。

青壮年層の皆さんは日常の業務に追われる中、如何に魅力ある青年委員会となるかについて、それぞれに限られた時間を有効に活用して、相互研鑽する姿には胸を打たれます。北海道、東北、北陸、中部、近畿、中四国、九州の各地区の若手技術者が連携し、毎年行われている青年技術士交流委員会支部連絡会議も年々充実してきました。これからも各地区の若手技術者との合同例会・合同特別企画の開催を通じて、皆さん自身のキャリアの形成や社会貢献活動の一助となることを期待しています。

このように、青年技術士交流実行委員会は自由闊達な雰囲気を大切にしながら、すがすがしい研鑽活動を展開しています。次代を担う若手技術者の皆さんの活動が今後の日本技術士会を活性化し、ひいては日本の産業界の発展に寄与していくことを祈念しつつ、青年技術士交流実行委員会へ熱いエールを贈ります。

H19年度の実績・成果並びに今後の課題について

委員長：時合健生

H19年度は、青年技術士交流実行委員会（以下、青年委員会）が設立され3年目となりました。H19年度の活動は、青年委員会の基盤が形造られたものと総括致します。青年委員会の各所掌事項に対応しH19年度を前後した主な実績と成果について下表に示します。同時にこれらの実績と成果に関与して頂きました委員会スタッフ並びに関係委員会・事務局スタッフに御礼を申し上げます。

先ず全体的な会運営としましては、前身の旧青年技術士懇談会時代の取組姿勢や活動内容を見直して技術士会活動方針に準拠し、“当たり前のこと（＝支部活動も勘案した予算策定と申請並びに取得、予算獲得後の執行管理の実施、会員ニーズに対応したミッション指向の会運営、関係委員会との連携強化及び活動の効率化等）を当たり前に実施する”方向に会運営を展開致しました。

研鑽活動（例会等の会員向けサービス）では、会員ニーズを調査し年代別（30才代、40才代）及び準会員を含む若手会員層別のニーズに対応した研鑽サービス（例会のシリーズ化、複数シリーズ例会の複数回/月の例会の提供化）の提供に移行しました。

No	分野(*1)	主な実績及び成果
1	会運営	H19年度予算取得、支部委員会も含めた予算計画及び執行管理の実施並びに適切な予算管理 実行委員会規定・内部規則の制定及び迅速な適用(H19.6)
		会員ニーズに対応、同好会型から日本技術士会ミッションに合わせたミッション指向の会運営に移行 関係委員会との連携強化 政策委員会(輪番制でのオブザーバー参加)、広報委員会、修習委員会、 日韓委員会、科学技術基本計画支援実行委員会、国際委員会等
2	研鑽	年代別、階層別のニーズに対応した例会サービスの実施(H19.9～)
		30才代、40才代、若手技術者・準会員を含む層のニーズに対応した例会の実施 例会のシリーズ化並びに複数例会の実施体制の構築(2～3回/月)
		親世代の青年層が参画する理科教育支援活動の取り組み(H19.10, H20.6)
		50周年特別企画の開催準備 関係委員会の企画・イベントの共催・協力
		1次合格者歓迎会(H20.1)、若手(準)会員を対象とした研鑽セミナーの実施(H19.11, H20.3, H20.4)
3	提言活動 (シンクタンク活動)	日本技術士会のロゴマーク制定(H19.7政策委員会・事務局)
		青年層の研鑽ニーズの調査と政策委員会への提言(H19.3-5) 公益法人化に伴う定款変更についての青年層の意見収集(H20.2-5)
4	国際交流	新たに豪州技術士会青年部との二国間交流の定例化(H19.6:2名招待訪問, H20.6:1名招待)
		香港工程師学会・香港土木技術者協会との交流開始(H19.10:来日, H20.8:訪問予定)
		日韓技術士会議の実施(第5分科会及び親善サッカー大会)(H19.9)
		ASEAN等CAFEO/YEAFEO参加国との定期的な交流(H19.11:フィリピン1名派遣) 海外交流実績の報告会、国際関係例会の実施
5	支部交流	全国大会青年分科会の実施(H19.10福井大会・北陸支部)
		青年分科会の場を活用した支部交流の定例化(H19.10)
		拡大運営委員会での交流の定例化(東京開催)(H19.6) ネットミーティングの開催(H20.3～)
6	広報その他内務	月刊PEへの委員会紹介記事掲載(H20.5月号)
		公式HPのリニューアル
		青年委員会プロの立ち上げと集客力強化(H19.秋口～)
		支部委員会も含めた青年委員会活動紹介パンフレット作成と配布(日本語と英語) 年鑑作成と配布(H19.6)

*1:4つの所掌事項に準拠(除:広報その他内務)

提言活動（シンクタンク活動）では、前記した会員ニーズの調査、政策委員会・事務局と連携した技術士会ロゴマーク制定、公益法人化の定款に関する青年層会員の意見収集等を行い、青年委員会のシンクタンク機能・提言機能を発揮致しました。

国際交流は、アジア・太平洋地域を基盤とし、従来、近隣諸国の韓国とアセアンと定期的に国際交流を行っていましたが、この1年半では、豪州技術士会との覚書に基づいて豪州技術士会青年部との交流並びに中国（香港技術士会）との二国間交流を行いました。

支部交流では、初夏の東京開催での本支部交流研修会・拡大運営委員会並びに秋の全国大会青年分科会での交流の定期化を行いました。特に全国大会では当事者のスタッフだけではなく、各支部若手会員や有志も5～10名/支部集まる交流の場に進化しました。同時に距離の壁を越えるネット会議・ネット例会の実施を開始しました。

広報を含む主な内部活動については、月刊PE（H20.5月号）での委員会紹介、公式HP改定及び委員会ブログ立ち上げによるタイムリーな情報提供と集客力強化への貢献、支部委員会も含む青年委員会活動の紹介パンフレット作成と配布並びに活動年鑑作成と配布等が主な実績・成果であります。

ロゴマーク制定については、政策委員会・事務局、日韓交流では日韓技術士会義実行委員会、第1次試験合格者歓迎会等では修習技術者支援実行委員会、国際交流全般では国際特別委員会、月刊PE記事の掲載等では広報委員会に大変お世話になりました。この場を借りて御礼を申し上げます。

平成20年度以降の各所掌事項の活動の課題としましては、下記の通りであります。

（1）研鑽活動

更なる会員ニーズを捉えた木目細かな研鑽サービスの提供と複数回/月の提供の実施。

（2）提言（シンクタンク）活動

政策委員会及び青年層の意見を取り入れた委員会独自提案による提言活動の実施。

（3）国際交流活動

技術士会や会員に貢献する戦略的な二国間・多国間交流の実施。

（4）支部交流活動

全国大会青年分科会の強化拡充並びにネット会議などの実施拡大による支部活性化。

（5）広報その他内務

会員への的確でタイムリーな情報提供と集客に寄与する広報活動の実施。

平成20年度の技術士会活動方針に則り、青年委員会は青年層会員ニーズの吸い上げと技術士会への提言、そのニーズに沿った国内外の研鑽サービスの提供及び支部青年委員会との人的・ネットでの交流を確実に実施し、若手の会員だけでなく、幅広い会員層に有益な各種サービスの提供に努めると共に、会員の定着化及び拡大に資していきます。

以上

【ワーキンググループ活動報告】

サブグループ名：シンクタンク

<p>グループメンバー (印：グループリーダー)</p>	<p>青木 中嶋(幸), 時合, 掛川, 新井, 倉井, 椿谷, 丹治, 佐々木, 堀田, 濱田, 幡野, 大氏, 中田, 山田</p>
<p>グループの目的・活動の趣旨</p>	<p>技術士会の運営についての企画・立案に対する若手技術士層としての積極的な参画・協力を行う。</p>
<p>今期の活動内容</p>	<p>1 .平成20年度に青年層として取り組みたい技術士会活動のテーマを全国から募り, 予算要求の形で政策委員会へ提案 2 .政策委員会の取り組む公益法人化へ向けた定款改訂について, 公開されている資料を青年層の立場で意見交換を実施</p>
<p>活動成果</p>	<p>1 .青年委員会4つの所掌事項ごとにテーマとプランを集約し, 全国大会(福井)の本支部交流研修会等を通して意見を調整した。予算案は執行部から政策委員会へ提出し, 初の独自予算獲得に成功した。 2 .公益法人化について, 公開されている資料を基に勉強し, 青年層として考える技術士会のあり方を, 支部の委員による協力を得て, 意見交換と集約を行った。</p>
<p>今後の活動・展開</p>	<p>平成21年度の公益法人化へ向けて, 今後政策委員会から技術士会会員へ向けた定款改訂についての意見募集が予定されている。青年委員会としては, 青年層の意見を集約して政策委員会へ届けることで, 所掌事項のひとつ「技術士会の運営についての積極的な参画」を果たしたい。 シンクタンクグループ活動は, まだ定常的なスタイルを確立できていない。日ごろから技術士会の開示する資料によく目を通し, 青年層活動の視点で情報を整理して青年層へ届ける等の活動が, 所掌事項の忠実な実施に必要なだと考えている。そのためにも, 政策委員会とのコミュニケーションが重要であることは言うまでもない。</p>

サブグループ名：研鑽

<p>グループメンバー (印：グループリーダー)</p>	<p>統括 Gr 新井 田村 時合 掛川 倉井 中嶋(幸) 30代 Gr 井上 鈴木(史) 前田 内藤 中嶋(幸) 長内 鈴木(圭) 40代 Gr 五座 柳澤 小松 平野 今野 石関 吉田 修習 Gr 松本 今野 石関 柳澤 鈴木(史) 長内 鈴木(圭) 井口 見学会 Gr 中嶋(秀) 井口 人財交流 Gr 平野 西角井 町野</p>
<p>グループの目的・活動の趣旨</p>	<p>技術士会会員へのサービス提供活動(例会の企画運営)</p>
<p>今期の活動内容</p>	<p>今期の本WGでは、会員サービス提供に関して以下に示す活動を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ニーズを踏まえた例会の企画運営 参加者のニーズに応えるために、世代別(30代、40代、修習Gr) 内容別(見学会、人財交流Gr)にサブグループを構成し、例会運営にあたった。また、参加者のニーズに即した例会を企画運営するために、例会時のアンケートを開始した。 2. 年間を通した例会開催計画の策定 それぞれのGr毎に、年間を通して実施する内容を勘案し年間計画を策定した。次回以降の例会予定を参加者にアナウンスすることにより、例会参加者が、次回以降に参加する例会を選択しやすいよう配慮した。 3. 会員の例会への参加機会増大 これまでの、1回/月の例会開催から、1月あたり複数回の例会を開催した。提供する例会の開催回数を増やすことで、サービス対象である技術士会会員に対して例会への参加機会の増大を図った。
<p>活動成果</p>	<p>今期の活動成果は以下の通りである。(平成19年7月～平成20年6月)</p> <p>【例会内容と実施回数】</p> <p>30代 Gr・・・技術士者倫理シリーズ(1回)、国際能力向上シリーズ(3回)、ビジネススキル(1回)</p> <p>今期前半の国際交流例会および報告会を含む</p> <p>40代 Gr・・・出前講座シリーズ(1回)、マネジメント講座(2回)</p> <p>修習 Gr・・・ビジネススキル(2回)、フットサル交流(1回)</p> <p>人財交流 Gr・・・交流サロン(3回)、講演会(2回)、その他(3回)</p> <p>その他共催例会(修習技術者支援実行委員会2回 生涯教育推進実行委員会1回)</p> <p style="text-align: right;">例会開催数合計 19回</p> <p>昨年までの、1回/1～2ヶ月の例会開催から、1～2回/月の例会を開催した。また、例会内容をシリーズ化することにより例会の継続性を担保し、参加者の継続的な研鑽に役立つように配慮した。</p>
<p>今後の活動・展開</p>	<p>今期は、例会の運営主体を、参加者のニーズを暫定的に考慮する形で、世代毎、内容毎に分けて例会を実施してきた。今後は、今期途中から開始した例会アンケートの集計結果を反映しつつ、絶えず例会内容の見直しを図っていく必要がある。</p> <p>また、今期は修習技術者支援実行委員会(2回) 生涯教育推進実行委員会(1回)との共催例会を実施した。来期以降はこれら技術士会内部他委員会との横断的な関係強化によるシナジー効果をさらに高め、青年委員会の会員サービスの質的向上、多様化を図っていく。さらに、技術士会内部に留まらず、外部他団体とのコラボレーションも視野に入れ、対外的な情報発信を包含した活動が望まれる。</p>

サブグループ名：国際交流総括

グループメンバー (印：グループリーダー)	平野 輝美、松本 正人、掛川 昌俊、吉田 均、 倉井 真里
グループの目的・活動の趣旨	<p>アジア・太平洋地域を中心に諸外国の若手技術者と相互交流を図り、会員に対して国際交流及び研鑽の機会を提供している。</p> <p>【他の委員会との連携状況】 日韓技術士会議実行委員会へ兼務委員として参加（平野委員） 国際特別委員会へオブザーバーとして参加（総括グループ委員）</p>
今期の活動内容	<p>今期は、日韓、CAFE0/YEAFE0、豪州、香港の4グループを設置し、精力的に活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日韓技術士会議青年分科会、親善サッカー大会を共催（韓国・ソウル / 2007年9月）。 2. CAFE0/YEAFE0派遣（フィリピン・セブ島 / 2007年11月）。 3. オーストラリア招待訪問（オーストラリア・キャンベラ&メルボルン / 2007年6月）。2008年6月オーストラリア若手技術者1名を招待する。 4. 香港より土木分野の若手技術者の来日に合わせ、国際交流企画を実施（2007年10月）。 5. 海外交流成果発表会を開催（2007年12月）。 6. フットサル愛好会を結成（2007年12月）。
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日韓技術士会議は韓国技術士会の主催であったが、大きな事故なく無事開催された。親善サッカー交流のためフットサル愛好会を結成した。 2. CAFE0/YEAFE0 は5ヶ年継続で青年技術士の派遣が実施できた。また、公募参加者が青年委員会スタッフとして継続活動している状況であり、委員会活動への興味付けのためにも有効な企画であることが立証された。 3. 昨年度のオーストラリア若手技術者の来日が日本の青年技術士招待 / オーストラリア若手技術者返礼招待に発展した。 4. 香港との国際交流企画を交流例会として実施した。合わせて修習技術者支援実行委員会の協力により、JABEE 課程の大学生も初めて招待し、学生同士の交流の場としても活用された。 <p>また、青年委員会の国際交流の活動方針として、下記のミッションステートメントを定めた。</p> <p>「我々は、アジア・太平洋地域を中心に諸外国の技術者団体との相互交流を図り、もって各国の技術者団体との知識と経験の共有を図ることにより、会員の国際的な視野を拡大し技術研鑽につなげるために、国際交流を行う」</p>
今後の活動・展開	<p>日韓技術士会議において、青年技術士の活動には一定の期待がされている状況であり、今後も継続して韓国青年技術士に働きかけて行く。</p> <p>CAFE0/YEAFE0 は、青年委員会の交流活動において唯一の多国間交流の場である。公募派遣を継続実施し、ASEAN 加盟国を中心として交流を深化させる。オーストラリアとの相互訪問が1サイクル完結する。今後の日豪ビジネスにおける利益の増進にいかにして発展させるかが検討課題である。</p> <p>香港との交流は、より多くの技術分野の若手技術者との交流に発展させる。</p> <p>上記のほか、さまざまな機会をとらえて、国際交流チャンネル開拓の模索を続ける。</p>

サブグループ名：支部交流総括

<p>グループメンバー (印：グループリーダー)</p>	<p>掛川昌俊、中嶋幸宏、五座由洋、小松秀次、内藤竜治、鈴木史人、石崎学、椿谷敏雄、佐々木貢、堀田亨、濱田常雄、大氏正嗣、中田圭吾、山田伸雄</p>
<p>グループの目的・活動の趣旨</p>	<p>支部交流活動の活性化</p>
<p>今期の活動内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国大会（福井） 青年分科会、交流研修会、青年冊子作成 2. テクノツーリズム 各地のデータ収集、データベース化 3. 持回り支部交流 ネットミーティングによる本・支部間の共催行事の検討 4. 拡大運営委員会・本支部交流研修会 特別講演、各支部活動報告、オーストラリアから青年技術士の招待 Proposal & Discussion, Panel Discussion, Technical Tour
<p>活動成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国大会（福井） 青年分科会、交流研修会、懇親会を実施することで親睦を深めた。 2. テクノツーリズム データベース化のシステムを構築した。 3. 持回り支部交流 ネットミーティングによる本・支部間の双方向コミュニケーションを実施するベースを築いた。 4. 拡大運営委員会・本支部交流研修会 6月28日、29日に開催予定 <div data-bbox="716 1207 1265 1617" data-label="Image"> </div> <p>写真1. 全国大会（福井）懇親会</p>
<p>今後の活動・展開</p>	<p>支部交流活動の活性化につながる活動を展開して、技術士の知名度向上、及びビジネスチャンスの拡大を図っていく。</p>

サブグループ名：支部持ち回り交流

<p>グループメンバー (印：グループリーダー)</p>	<p>中嶋(幸), 小松, 椿谷, 丹治, 佐々木, 中田, 山田</p>
<p>グループの目的・活動の趣旨</p>	<p>各支部における若手技術士グループとの交流による研鑽活動の活性化の一環として, 支部持ち回りによる行事を検討する。</p>
<p>今期の活動内容</p>	<p>ネットミーティングによる支部交流方法を検討</p>
<p>活動成果</p>	<p>平成 20 年度にネットミーティング試験を提案した。平成 20 年 4 月に青年委員会会場(神谷町)とプロジェクトチーム「IT21 の会」例会会場(蒲田)をインターネットでつなぎ, 無料サービス(Skype および SOBA)を活用したネットミーティングをによるコミュニケーションを実施した。</p> <p>Skype と SOBA を組み合わせた方法はツールとして有用であると言える。30 人規模の会議室を相互に接続した試験ケースでは, 相互の会話を自然に交わすことができ, カメラによる雰囲気の伝達, PowerPoint 等による相手会場へのプレゼンテーションも可能である。</p>
<p>今後の活動・展開</p>	<p>平成 20 年 6 月拡大運営委員会(東京)では, ネットミーティングによる遠隔参加と双方向コミュニケーションを実施する予定である。</p> <p>今後はグループ討議 + 発表形式の行事を拠点間で共催し, 相互に発表することで地域を越えた研鑽と交流を図れるよう, 適用を広げていきたい。無料サービスのリスクについては, 対策を要する。</p>

サブグループ名：テクノツーリズム

グループメンバー (印：グループリーダー)	丹治[総括]、椿谷、石関[本部総括]、鈴木(史)
グループの目的・活動の趣旨	全国技術スポットの情報共有
今期の活動内容	<p>1．技術情報の収集 本グループの目的を各支部へ理解頂き、全国に存在する技術スポット（技術が集約された名所というべきスポット）の情報提供を呼びかけた。</p> <p>2．情報開示手段の検討 1．により収集した情報の開示方法として、インターネット経由での実現を検討した。</p>
活動成果	<p>1．収集した情報は pdf 形式にて保存済み。(現在 19 件) 情報収集については継続して実施している。</p> <p>2．青年委員会データベース化プロジェクトに協力頂き、委員会サーバ代として予算申請。サーバを契約し、体制整備を実施している。</p>
今後の活動・展開	<p>2．を優先課題として、情報開示可能な体制整備を整える。Google 社提供の GoogleMap システムを使用し、技術スポットを地図上にて視覚的に検索できることを目標とする。</p> <p>技術情報の収集については、上記と並行し、継続して実施する。</p>

サブグループ名：拡大運営委員会・本支部交流研修会グループ

<p>グループメンバー (印：グループリーダー)</p>	<p>掛川昌俊、中嶋幸宏、五座由洋、小松秀次、内藤竜治、鈴木史人、石崎学、椿谷敏雄、佐々木貢、堀田亨、濱田常雄、大氏正嗣、中田圭吾、山田伸雄</p>
<p>グループの目的・活動の趣旨</p>	<p>各支部・本部が一同に集会して研鑽をする。</p>
<p>今期の活動内容 (6 / 28 , 29 に実施予定)</p>	<p>1 . 拡大運営委員会 (1) 特別講演 「日本技術士会が青年技術士に期待すること」 政策委員会 副委員長 井出 宏 氏 「Young Engineers Australia の活動報告」 Young Engineers Australia Chair, Anntonette Joseoh (2) 各支部・本部のH19年度の活動報告と、H20年度の活動方針 (3) Welcome Party</p> <p>2 . 本支部交流研修会 (1) Proposal and Discussion 「グローバルエンジニアへの道」 ・Proposal 「グローバル社会における日豪技術士の役割」 (豪州) Anntonette Joseph、(日本) 松本正人 ・Discussion 「グローバル社会において国際交流はどうあるべきか」 Chairman 前田秀一 (2) 情報交換研修会 「理科教育への取組み」 ・理科教育への取組み紹介：北海道支部、東北支部、中部支部 ・Panel Discussion 「理科教育への取組み」 コーディネーター 平野輝美 (3) Technical Tour</p>
<p>活動成果</p>	<p>(6 / 28 , 29 に実施して、成果を出します。)</p>
<p>今後の活動・展開</p>	<p>各支部・本部が一同に集会する機会を大切にして、地域間の垣根を越えた研鑽を実施していく。</p>

サブグループ名：全国大会

<p>グループメンバー (印：グループリーダー)</p>	<p>掛川昌俊、中嶋幸宏、五座由洋、小松秀次、内藤竜治、鈴木史人、石崎学、椿谷敏雄、佐々木貢、堀田亨、濱田常雄、大氏正嗣、中田圭吾、山田伸雄、 (北陸支部の全国大会グループメンバー：堀田亨、齋藤真晴、小見直樹、大塚直吉、川端恭一、池田保裕、安江雪菜、竹内勝信)</p>
<p>グループの目的・活動の趣旨</p>	<p>全国大会の成功を目的として、 全国各交流実行委員会をととした青年の共同と連携</p>
<p>今期の活動内容</p>	<p>【全国的な連携】 ・全国大会の参加・青年の大会冊子の原稿依頼を、各交流実行委員会をとおして呼びかけた。 ・6月本部にて開催した青年技術士交流実行委員会において、福井全国大会PRの際、全国のグループメンバーをとおして協力要請をした。 ・大会前日の「青年技術士の集い」にあたっては、企画・講師の選定を全国グループメンバーに呼びかけた。 ・集いのメインテーマ「社会とともに成長する技術者をめざして」に見合った講師の選定を行った。 【北陸支部の連携】 ・ほぼ毎月(計5回)に及ぶ青年だけの全国大会準備会のほか、6月にプレ全国大会(福井)を開催し、さらなる連携・交流と参加を呼びかけた。</p>
<p>活動成果</p>	<p>・青年の大会冊子は約80ページ、大変内容の濃いものが出来上がった。 ・青年技術士の集いのテーマに見合った講師の選定がグループメンバーの協力によって可能となった。 ・講師の方々の話は非常に好評で、全国の方に、青年(交流実行委員会)の活動について理解を深めてもらうことができた。 ・技術士会事務局のない県での開催であったが、支部内4県から積極的に開催地である福井県に出向いたことで、コアとなるメンバーを発掘できた。 ・この大会の成功をきっかけとして、産官学の連携の他、福井県内および支部内の連携・共同がさらに深まり、全国的にも良い事例となった。 ・福井県での交流委員会の連携が、20年度開催の島根県(松江市)での全国大会においても生かされると確信している。</p> <div data-bbox="555 1384 1471 1624"> </div>
<p>今後の活動・展開</p>	<p>2008年全国大会は10月に島根(松江)で開催いたします。</p>

サブグループ名：広報

グループメンバー (印：グループリーダー)	田村裕美、小松秀次、鈴木史人、石関学、井口慎也、鈴木圭司
グループの目的・活動の趣旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年委員会の活動紹介、行事案内 2. 青年委員会の活動報告を目的とした活動年鑑の作成 3. スタッフ連絡用メーリングリスト、およびブログの運営 4. 委員会資料の保存・活用を目的としたデータベース管理 5. 技術士会広報委員会との活動連携
今期の活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年委員会活動紹介、行事案内HPの整備・運営 <ul style="list-style-type: none"> ・青年委員会HPの整備、運営 ・技術士会HP及び技術士会月刊PE行事予定連絡 ・技術士会同報メールを利用した行事案内の配信 ・青年委員会お知らせブログ、フットサル愛好会ブログの運営 ・月刊PE活動報告記事掲載 ・支部共通パンフレットの製作 2. 活動報告書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・活動年鑑(6月)の作成 3. メーリングリスト等の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・メーリングリストの運営管理 ・スタッフ専用ブログを運営し、支部メンバーにもパスワードを周知 4. データベース管理 <ul style="list-style-type: none"> ・データの集約 ・サーバーの有効利用整備 5. 技術士会広報委員会より協力依頼 <ul style="list-style-type: none"> ・2008年度月刊PE表紙デザイン意見徴収 ・月刊PE通巻500号記念号への協力 6. 各支部の活動紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・青年委員会お知らせブログに、他支部の例会案内を掲載 ・北海道青年技術士交流委員会製作のリスクマネジメント冊子の広報 ・中部青年技術士会TMOの環境省コンテスト出場の広報を実施した。 7. 10月の香港ICE来日時に英語版ガイドブックを作成した。
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年委員会HPは定期的な更新を行い、TOPICのコンテンツを追加した。 2. 例会に伴うメイキングエッセイをお知らせブログに掲載し、広報効果をあげた。 3. 月刊PE表紙デザイン刷新について、技術士会広報委員会より青年層の意見徴収依頼があり、wikiを利用し全国青年技術者より約100本の意見があげられた。 4. 支部共通パンフレットは各支部の若手スタッフと共にグループを結成し製作することにより、次世代主要スタッフの交流も構築していく。 5. 2008年1次試験合格者歓迎会にて、ポスター展示や支部共通パンフレット概要版を配布し、青年委員会活動を広くアピールできた。 6. 月刊PE2008年5月号に青年委員会活動を4頁にまとめ、掲載された。 7. 月刊PE通巻500号記念号について、各種企画への協力を要請されている。 8. 『広報』のスタンプを作り、広報WGメンバーの名刺に活用したことにより、人的広報効果があげられた、またプレスとして外部でも通用する。
今後の活動・展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年委員会HPの刷新 2. 支部共通パンフレットの充実化(英語版の製作含む) 3. 広報活動の横展開 4. ITツールの活用による青年委員会業務運用管理の効率化 5. 新しい広報チャンネルの模索 6. 広報WG業務の役割分担の明確化と平準化

委員会から

青年技術士交流実行委員会の活動

The Introduction of "IPEJ Young Engineer's Committee"

青年技術士交流実行委員会（以下、青年委員会と記載）は、青年技術士へ向けた研鑽活動、人脈形成など支援を行っている。本稿では、青年委員会の活動実績（研鑽活動、支部・国際交流活動など）、及び今後の活動方針を紹介する。

"IPEJ Young Engineer's Committee" is one of the sub-committees of IPEJ. Our activities are to support Continuing Professional Development for young engineers, and to establish international exchange among young prospective professionals. This article introduces various kinds of activities of IPEJ Young Engineer's Committee and our action plan to the future.

キーワード：研鑽活動、特別シンポジウム、国際交流、CAFEO/YEAFEO、ミッションステートメント

1 青年委員会の体制・主な活動内容

青年委員会は、部会の他すべての支部からも推薦された7人の委員を含む21名により構成される。準会員も委員補佐として活躍の場が認められている。青年委員会の使命は、本会の方針や政策に関する青年技術士層としての協力とともに、若手技術士に向けた研鑽活動の実施や人脈形成活動に関するバックアップである。青年技術士が、部門や支部を跨ぎ国外をも視野に入れたネットワーク形成を実現し、技術士としての研鑽活動を継続的に実行できるように、支援している。青年委員会の主な活動内容としては、下記の4分野が挙げられる。

- ・特別シンポジウム等の講演会、見学会、会員相互の情報提供、自己研鑽の場の提供
- ・各支部との交流や、全国大会における青年分科会の企画・参加
- ・ASEAN、韓国、オーストラリア、香港等との二国間・多国間国際交流
- ・政策委員会からの依頼事項への対応

2 研鑽活動

青年技術士層へのサービス提供として、下記の主旨に則り活動を企画・実施している。

- ・世代、能力、階層に合わせたきめ細かい研鑽サービスの提供
- ・テーマに一貫性を持たせた企画を継続的に提供

（シリーズ化）

- ・人脈形成、情報交換ができる『場』の提供

2.1 実施方針

2007年3月、全国の青年技術者層150名から本会に対する要望を収集した。その中から会員向けサービスに関する項目を抽出・分析し、上記の主旨を策定した。これを基に年間テーマ『継承と発展』を設定し、対象を年代別グループに分け、年間計画を定めている。

- ・30代グループ：技術士取得間もない若手技術士層を対象
- ・40代グループ：独立開業志向の壮年技術士や企業の管理職になりつつあるベテラン技術士層を対象

2.2 前期の活動紹介

07年度7月以降の主な活動を表1にまとめた。新たな取組みとして、日本技術士会から社会への発信や地域活動への参加を目標とした「出前

表1 07年度7月以降の主な研鑽活動紹介

7月・9月	若手技術者による講演会
8月	交流イベント・ビアパーティ
10月	香港技術者団来日交流
12月	国際交流成果発表及び参加型例会
1月	マネジメント講座「ライフワークバランス」
2月	博物館・科学館の出前講座に学ぶ

講座」の例会を行った。次世代を担う子供達への理科教育支援を目指し、実現のためのノウハウを蓄積している。



写真1 ディベートの様子(07年12月開催)

2.3 今後の活動

表2のように6分野ー7コースー約30近い研鑽活動の提供を実施・計画している。効果的に内外への広報を展開し、より多くの方々に参加して頂くとともに、質の高い研鑽と部門横断的な技術者交流のできる『場』を提供し続けていくつもりである。

表2 07年度後期～08年度の活動(回数:予定)

1.ビジネススキルアップ (6回)	タイムマネジメント, 業務遂行のヒント, ドキュメンテーション, プレゼンテーション等
2.マネジメント講座 (6回)	管理職研修情報交換会等
3.技術者倫理シリーズ (4回)	事例に学ぶ技術者倫理等
4.交流イベント (6回)	フットサル交流, 人脈形成交流会等
5.国際交流 (2回)	国際マナー講座, 工業英語等
6.見学会 (4回)	工場見学, 産業遺産ツアー等

そのほか、修習技術者支援実行委員会の一次試験合格者歓迎会(例年1月)、修習セミナー(例年11月)開催には積極的に協力している。08年は、青年委員会の前身である青年技術士懇談会の設立から数えて50年目にあたる記念すべき年である。これを記念し、50周年記念特別シンポジウムを企画中である。青年委員会の発展に寄与された諸先輩方と一丸となり、これまでとこれか

らの日本について、技術を切り口として語り合える機会となるように計画している。

3 支部交流活動

日本全国の青年技術士との交流を深めるために、支部交流に力を注いでいる。

3.1 全国大会での取組み～北陸・福井市での青年技術士未来を語る～

07年10月、「青年技術士の未来～社会とともに成長する技術者を目指して」と銘うって、青年分科会として講演会「青年技術士の集い」を開催した。テーマの趣旨は、「技術者は、未来を見据え、社会の発展をめざしてイニシアチブを発揮しながらも、常に自らの成長もめざそう!」であった。青年分科会を専門分野別分科会と別日程とすることで参加しやすいように配慮し、85名の参加者を集めて大盛況となった。合わせて全国の青年技術士の活動紹介を集めた冊子を作成、配布した。

講演では、次世代の技術者に対してメッセージを頂いたり、ノウハウを紹介されたりした。また、子供たちを対象とした体験学習や出前講座がその場で再現された。子供たちの興味を引き出すためにクイズ形式を採用したり、ストーリーを使って笛を作ったりなどの工夫は、技術者ならではのテクニックといえる。

青年分科会の成功は、地元福井県の青年技術士の活躍なくしては語れない。北陸支部を中心に、全国各支部の力を結集することで実現した。支部事務局所在県でなくても、意識の高い青年技術士



写真2 全国大会懇親会の様子

が集まることで、高いレベルの企画ができることを実証した良い事例である。08年は、中・四国支部が主催となり、10月16日～17日に松江大会が開催される。

3.2 支部交流研修会（例年6月、東京開催）

全国大会のほかに、例年6月に東京で各支部委員が参集し、全国レベルでの共同取り組み活動や方針を討議・確認している。

3.3 テクノツーリズム

出張、または旅行で各地域へ出向くことがある。その地域の名スポットと、そのスポットの技術に関する情報があれば、技術士としても有意義な時間が過ごせるのではないだろうかという北海道支部の提案（05年）を基に、各地域からテクノスポット情報を集めている。さらに情報を充実させるとともに、青年委員会HPを通じて、今後情報発信していく。

3.4 ネットミーティング

青年委員会の定例会や運営委員会は、毎月各々の支部で開催している。全国各支部の活動を、インターネットを利用し有機的に結合することで、各支部間での共催を試みている。場所に関係なく、地域の特色を生かした『タイムリーな研鑽機会』を全国に提供できる。来年度にはデモンストラーションを実施する予定である。

4 国際交流活動

青年委員会の前身となる青年技術士懇談会の時代から、アジア・太平洋地域を中心とした海外の若手技術者たちと継続して交流している。日韓技術士会議実行委員会、国際特別委員会とも連携を取りながら、『青年技術士としての国際交流活動』を実践している。

4.1 CAFEO/YEAFEO会議（ASEAN交流）

ASEAN構成国の技術者会議CAFEO（Conference of ASEAN Federation of Engineers Organisations）での発表者または若

手会議YEAFEO（Young Engineers of AFEO）への参加者を募集し、毎年数名を派遣している。昨年のCAFEO/YEAFEO会議はフィリピンで開催され、5年目の参加となった。08年度は11月にタイで開催される。公募し、数名を派遣する予定である。

ASEAN各国と交流を継続する中で、05年にはIEM（The Institution of Engineers, Malaysia）からマレーシア若手技術者派遣団が来日等、新たな交流に発展している。



写真3 CAFEOオープニングセレモニー（07年12月）

4.2 日韓技術士会議

日韓の青年技術士組織として、相互の国際交流と研鑽を実現するために活動している。37年の歴史をもつ日韓技術士会議において、05年から、韓国技術士会青年委員会と共催で青年分科会と親善サッカー大会を継続的に運営し、日韓両国の青年層の相互理解と友好親善を深めるために貢献している。07年度は、9月にソウルで開催し、日本側青年は約20名の参加者であった。07年の第33回技術士全国大会では、第6分科会（青年分科会）の基調講演に韓国技術士会から朴理事を招聘した。08年度は、9月に新潟にて討論形式のシンポジウムと親善サッカー大会を開催する。サッカー大会での善戦を目標に掲げ、07年12月には青年委員会が主体となってフットサルチームを立ち上げた。目標達成を目指し、練習を開始している。

4.3 オーストラリア交流

06年日豪交流年を機に、日豪若手プロフェッ

ショナルエンジニアのネットワークの構築と日豪ビジネスにおける利益の増進を目的として、オーストラリア技術士会 (Engineers Australia) 青年委員会との交流を開始した。昨年はオーストラリアからの招待を受け、2名の青年技術士をオーストラリアに派遣した。合わせて Professionals Australia という専門職従事者組織の会合にも参加し、IT技術者や建築家、歯科医などの専門家グループとも若手専門職としての議論を展開して、今後の二国間交流の方法・方向性について検討し、オーストラリア技術士会青年部スタッフとの交流を日本で開催する。(08年夏予定)



写真4 オーストラリア技術士会との交流

4.4 香港交流

07年10月には、ICEHKA (Institution of Civil Engineers Hong Kong Association) から9名の若手技術者が来日し、東京での都市緑化視察及び技術セミナー、交流パーティーを実施した。海外の若手技術者組織では学生を含む G&S (Graduates and Students) という形態が一般的である。そこで、新たな取組みとして、JABEE認定を受けている東京農業大学から学生を招待して同世代の相互交流を実現した。今夏には香港での交流を計画している。

4.5 国際交流のミッションステートメント

青年委員会は、国際交流についてのミッションステートメントを以下のように策定した。『我々

は、アジア・太平洋地域を中心に諸外国の技術者団体との相互交流を図り、もって各国の技術者団体との知識と経験の共有を図ることにより、会員の国際的な視野を拡大し技術研鑽につなげるために、国際交流を行う』。

今後も新たな国際交流チャンネルを開拓しつつ、(二国間) 交流プログラムを開発し、青年技術士を対象とした国際交流の研鑽機会と情報を提供していくつもりである。

5 政策委員会からの依頼事項

前期政策委員会からの依頼により、本会の新ロゴマークの公募、一次選定作業について協力し、07年6月に公表に至った。このほかには、青年技術士層の会活動に関する意見の取りまとめ(前期政策委員会報告書に反映:07年3月)を行った。

6 その他の活動

08年2月には、本会公益法人化に関して、青年層の立場で意見交換を実施した。

そのほか、研鑽活動での講演会や見学会、支部交流や国際交流及び会員相互での情報交換、ホームページの運営などの広報活動も、精力的に行っている。07年には「青年委員会ブログ」を開設し、活動予定や活動経過の記事を頻繁に更新している。ブログを読んで青年委員会イベントへの参加申し込みをされる参加者も多く、効果的な広報手段となっている。

7 おわりに


<継続は力なり>というが、先輩方の志を引き継ぎつつ、支部を含め国内外に活動領域を広げて活動していきたい。

青年技術士交流実行委員会

e-mail : seineniinkai@yahoo.co.jp


URL : <http://www.engineer.or.jp/cmt/y/seinen/>


【 支 部 活 動 報 告 】

支部青年組織名称	北海道支部 青年技術士交流委員会
代表者名・部門	<p>氏 名 丹治 和博</p> <p>部 門 総合技術監理部門 建設部門</p> 
これまでの活動内容 (2007.6~2008.5)	<p>平成 19 年度総会、北海道の技術・講演会（泥炭地盤との戦い） 5/21</p> <p>北海道の技術・講演会（JR 北海道、DMV） 7/27</p> <p>テクニカルスクール（会議の場のデザイン） 10/3</p> <p>第 34 回技術士全国大会（北陸大会） 10/16~19</p> <p>第 37 回日韓技術士会儀（韓国ソウル） 9/30~10/1</p> <p>北海道の技術・講演会（北海道における新エネルギー） 11/20</p> <p>北海道の技術・講演会（北海道米と米の流通） 2/28</p> <p>テクニカルスクール（聴く技術とファシリテーション） 4/17</p> <p>平成 20 年度総会、講演会（儲かる知的財産権） 5/21</p>
今期の活動成果	<p>全国青年技術士との交流</p> <p>全国大会では 6 名が参加、日韓会議では 1 名が参加し交流を深めた。</p> <p>テクニカルスクールの開講</p> <p>10/3、4/17 に開講し、合計 49 名が参加した（会員以外を含む）。</p> <p>北海道の技術・講演会</p> <p>4 回の講演会を実施し、のべ 182 名が参加した（会員以外を含む）。</p> <p>EPO（エンジニアリング・パーク・オンライン）の運営</p> <p>北海道の技術士 ML を運営し、4 月末現在約 550 名が参加している。</p> <p>冊子「技術士の視点で組織の危機管理を考える」の販売</p> <p>平成 19 年度に 154 冊を販売（販売冊数は延べ 473 冊）。</p>
今後の課題	<p>次世代を担う技術者育成</p> <p>H20 から理系教育現場（大学）への支援事業を試行的に行う予定であるが、その進め方や継続的な取り組み方が課題である。</p> <p>修習技術者への支援、交流活動</p> <p>現時点では特段の事業を実施していなく、今後の課題である。</p> <p>技術士の社会的地位・社会認識の向上</p> <p>H19 から講演会の一般参加を受付けるとともに、H20 からは理系教育現場への支援も行うが、継続性が社会的認知の一步と考える。</p>
その他、本部への意向等	<p>青年技術士の全国的な連携を実感できる体制と活動を今後も望みたい。現在の活動に加えて、ニュースレターなどの発行があると良い。</p> <p>地方や地域に密接した活動を望む。例えば、本部と関東支部の機能を分離し全国的視点と地域視点での事業を分割することも必要では。</p>


平成 19 年度支部活動報告

支部青年組織名称	東北支部青年技術士懇談会
代表者名・部門	氏 名 佐々木 貢 部 門 建設部門
これまでの活動内容 (2007.6～2008.5)	<p>幹事会(7回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回幹事会 4月11日 ・第2回幹事会 5月17日 ・第3回幹事会 5月29日 ・第4回幹事会 7月11日 ・第5回幹事会 8月30日 ・第6回幹事会 9月26日 ・第7回幹事会 10月31日 <p>研修会(3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会,第1回 研修会 6月28日 演題:「BCPを支える地震対策」 講師:清水建設株式会社 技術研究所 石川 裕氏(技術士) 内容:危機管理について ・北東三支部交流研修会(仙台) 11月21日 ・技術士第1次試験合格ガイダンス 2月3日 <p>交流会(3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本部青年技術士交流実行委員会 交流会 6月16日 ・日韓技術士会議派遣(ソウル) 9月28日 ・全国大会派遣(福井) 10月16日
今期の活動成果	<p>研修会の実施</p> <p>各支部との交流</p> <p>東北各県青年技術士との交流</p> <p>日韓会議、全国大会への参加</p> <p>理科教育等への取り組み</p>
今後の課題	<p>若手技術士(技術士補も含む)の活動参加</p> <p>幹事の若返り(新規募集)</p> <p>平成21年度全国大会(仙台)の準備</p> <p>活動方針の改革</p>
その他、本部への意向等	各支部の取組み、活動等の情報交換

支部青年組織名称	北陸支部 青年技術士委員会
代表者名・部門	<p>氏 名 齋藤 <small>まさはる</small> 真晴</p> <p>部 門 建設部門</p>  <p>5/16 の北陸支部総会において委員長 堀田亨より交代</p>
これまでの活動内容 (2007.6～2008.5)	<p>【運営委員会】毎月(新潟市)開催 出席者5～8名程度 講演会・見学会等の各種行事の企画ほか、支部行事への参加要請</p> <p>【支部4県交流】2007年6月23日～24日(福井市)開催 参加者23名 全国大会プレイベントとして、会場下見・懇親会のほか、福井市内見学会(三国港突堤・東尋坊・雄島・めがね橋ほか)を企画・実施</p> <p>【青年技術士の集い】2007年10月16日(福井市)開催 参加者80名 基調講演「おもしろそー」 北陸支部 鳥居直也氏 講演1 「技術者のライフプラン」 本部 五座由洋氏 講演2 「水の浄化を題材とした環境教育」中部支部 野々部顕治氏 全国大会において、上記の青年行事を企画・実施</p> <p>【見学会】2007年11月17日(新潟市周辺)開催 参加者17名 テーマ「新潟の暮らしを支える自然の恵みとエネルギー」 見学地：ビュー福島潟・新潟東火力発電所・市島酒造 上記について企画・実施</p> <p>【講演会】2008年4月26日(新潟市)開催 参加者26名 テーマ「政令指定都市・新潟市の暮らしと未来」 ～都市の新しい価値を考える～ 講演1 「CO₂排出による地球温暖化の現状について」 環境省 新潟事務所 遠藤裕一氏 講演2 「スポーツ振興をととした地域活性化への取り組み」 サッカー解説者 古保健次氏 上記について企画・実施</p>
今期の活動成果	<p>【全国大会(福井)の成功】 これまで福井県では、青年が主体となった活動が特になかったが、北陸支部4県の青年の核となるメンバーに福井市に集合してもらい、計5回の準備会を開催。お互いに顔を合わせることで信頼感が生まれ、一致団結して全国大会を成功させることができた。</p> <p>【各県から多くの人材を発掘】 全国大会(福井)をきっかけとして、各県から青年技術士委員会を支えてくれる多くの青年を見つけることができた。また、その輪がさらに広がり、支部各県において青年委員会の基盤ができつつある。</p>
今後の課題	<p>【本部行事への協力要請】 第38回 日韓技術士会議(新潟市)および第35回 技術士全国大会(松江市)への北陸支部として可能な限りの参加と協力を要請する。</p> <p>【次世代の人材発掘】 北陸支部各県の青年委員会の円滑な運営および、委員会を支えてくれる次世代の人材発掘により委員業務の負担軽減と均等化を図る。</p>
その他、本部への意向等	<p>【第38回 日韓技術士会議への協力要請】 9/28(日)～9/30(火)日韓技術士会議が新潟市にて開催されます。9/28(日)親善サッカー大会、9/29(月)本会議への参加について、全国のみなさんに呼びかけをお願い致します。</p>

支部青年組織名称	中部青年技術士会（中部青年技術士会）
代表者氏名・部門	氏 名 平松 明子（ひらまつ あきこ） 役 職 会 長 部 門 環境部門・建設部門 
これまでの活動内容 （2007.6～2008.5）	6月例会；2007/06/30 見学会（新日本製鐵名古屋製鐵所） 7月例会；2007/07/14（中部企業内技術士懇談会との合同例会） 講 演「ここまできた小型風力発電」 9月例会；2007/09/1（岐阜県技術士会との合同例会） 講 演「環境適合製品設計とその事例について」 実 習「参加者によるプレゼンテーション研修」 10月特例会；2007/10/24（水） 『面接試験目前に聞く！！ 私の技術士二次試験体験談』と近況報告 11月例会；2007/11/3 見学会（名古屋市港防災センター） 11月技術者倫理例会；2007/11/23 内 容；第2回 技術者倫理例会「～社会の中の技術者～」 1月特例会；2008/01/23 内 容；今年の抱負、利き酒選手権、新年会を兼ねた座談会、「私の一本」 2月例会；2008/02/23（建設部会との合同例会） 講 演「モノづくりのためのヒトづくり 時代が求める“T字型人材の育成”『技術と技能は車の両輪』」 5月例会；2008/05/31（建設部会、災害防災委員会との記念講演会） 講 演「大地震を前に社会の再点検」 【例会以外】 第34回 技術士全国大会（福井）2007/10/16～19 参加分科会；青年技術士の集い、第4回技術者倫理事例発表会 第37回 日韓技術士会議（韓国：ソウル）2007/9/30～10/2 参加分科会等；第3回日韓サッカー大会、第5分科会
今期の活動成果	近年は外部講師による講演が多くなる傾向があったが、青年単独の例会では、見学会や会員による講演を行い、自主的に関わる機会を増やすことができた。
今後の課題	例会への新規参加者が定着しない傾向が続いている。また、例会参加者数も伸び悩んでおり、財源的に厳しい状態が続いている。 ・学生や修習技術者も参加したくなる企画提案 ・新規会員の定着化 今期新たに導入したWGも今後軸になるか検討中である。
その他、本部への意向等	・技術士の認知度の向上 ・担当者の本部への派遣費用補助制度の見直し ・活発な「技術士活動」を行うための制度充実 ・技術士としての業務独占資格の拡充

支部青年組織名称	近畿青年技術士懇談会
代表者名・部門	氏 名 大氏正嗣 部 門 建設部門
これまでの活動内容 (2007.6～2008.5)	<p>2007.9 講師：(株)島津製作所 田中 宏技術士 講演内容：マイクロマシン技術を応用した分析装置の開発</p> <p>2007.10 講師：株式会社 ガスアンドパワー 藤丸直也技術士) 講演内容：火力発電所に関連する法的要求事項の概要</p> <p>2007.11 講師：兵庫県企業庁管理局 埴谷健太郎技術士 講演内容：道路整備の現状と課題・展望</p> <p>2007.12 講師：オリエント化学工業株式会社 畑瀬 芳輝技術士 講演内容：プラスチックのレーザー溶着</p> <p>2008.01 ミニ講演 水の大切さ、水の性質を利用した技術、健康 宮田秀夫様 近畿の鉄道史 藤澤晴彦様 土壌汚染調査を含めた環境 松本光雄様 ナノメートルの世界 一花裕一様 快適性と省エネ性を達成する新ビル空調システム 加藤孝様</p> <p>2008.03 講師：大塚 正樹様 技術士 講演内容：素人にもできる地震応答予測</p> <p>2008.04 講師：赤穂 清隆 技術士補 題目：ホントは楽です ISO - マネジメントシステム四方山話 -</p> <p>2008.05 講師：鳥居直也様 技術士 講演内容：「これからの技術士」</p>
今期の活動成果	最新の技術から、社会情勢まで幅広い内容についての、自主研鑽を行った。
今後の課題	会員数は一時期と比べて減少した状態であるが、継続的な活動を続けることで研鑽を続けていきたい。
その他、本部への意向等	

支部青年組織名称	中・四国支部 青年技術士交流委員会
代表者名・部門	<p>氏 名 中田 圭吾</p> <p>部 門 上下水道</p> 
これまでの活動内容 (2007.6～2008.5)	<p>6月 総会「規約改定、新委員選出」 中・四国支部修習技術者支援セミナー協力</p> <p>7月 例会および勉強会「長繊維混入補強土緑化による現場施工報告」</p> <p>8月 例会および勉強会「余剰汚泥からのりん回収技術の経済性検討」</p> <p>9月 中・四国支部修習技術者支援セミナー協力 例会および勉強会「Windows で使えるテキストツール」</p> <p>10月 見学会「アサヒビール西条工場」 例会および勉強会「下水道施設の維持管理について」 第 34 回技術士全国大会（福井）参加「9 名」 中・四国支部修習技術者支援セミナー協力 国際交流フェスティバル(ぺあせろべ 2007)参加による P R 活動</p> <p>11月 例会および勉強会 「道路構造令（道路の構造の一般的技術基準）について」</p> <p>12月 中・四国支部修習技術者支援セミナー協力(米子市出張セミナー) 例会</p> <p>1月 例会および勉強会「排水渠の水の流れについて」</p> <p>2月 例会および勉強会「理科実験プロジェクト参加報告」 中・四国支部技術士一次試験合格祝賀会での P R 活動</p> <p>3月 例会および勉強会「ブリッジコンテストの提案」</p> <p>4月 例会 中・四国支部技術士二次試験合格祝賀会での P R 活動</p> <p>5月 例会および勉強会「建設工事における最近の工法紹介」</p>
今期の活動成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例会、勉強会、修習技術者支援委員会（セミナー、祝賀会）を通じて会員の拡大および会の活性化を図る事ができた。 （今年度より、修習技術者の参加が増えてきた。） ・ 一般市民への技術士の P R 活動としてイベント参加の実施。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年技術士交流委員の中核となっているメンバーの高齢化および会の更なる発展。（次の代への引継ぎ体制の構築） ・ 活動の広域化（活動拠点が広島市中心が現状） ・ 一般市民への効果的な P R 方法（模索中）
その他、本部への意向等	<p>今年度の第 35 回技術士全国大会（松江）の参加、お願いします。 （今は、この事で頭がいっぱいです。）</p>

支部青年組織名称	九州支部 第7部会
代表者名・部門	氏 名 山田 伸雄 部 門 建設
これまでの活動内容 (2007.6～2008.5)	「九州の産業・技術遺産」をテーマとして以下の活動を実施した。 定例会：軍艦島、三池港、世界遺産登録の舞台裏 見学会：北部九州の産業技術遺産 講演会：『遠賀川流域の近代化』、『世界遺産概念に学ぶ文化遺産のマネジメント』
今期の活動成果	まとめと提言 ～『産業技術遺産の保全・活用』等に対して技術士ができること～ 産業遺産の保全活用等に関して技術士が社会に提供できる技術・ノウハウ、提案を発信し、日本が誇る文化遺産、産業技術遺産を活かした国づくり、まちづくりの支援を行っていくことが必要である。 そのためには各技術士がそれぞれの立場から以下を実践していくことが望まれる。 自分が提供できる技術・ノウハウの再確認 ・保全活用の技術（施設維持、まちづくり計画等） ・観光化支援（遺産の技術的価値付け、ストーリーの構築等） 日本技術士会を通じた社会への発信 ・技術士パーソナルデータベースへの登録 ・業務推進委員会等での業務化検討
今後の課題	「モノづくり」だけでなく、（ツーリズムの国 特徴を活かした地域づくり）という新たな経済基軸に対応することで、技術士の活躍の場がさらに広がる。 そのためには、技術・情報を所有する技術士とエンドユーザーである消費者をマッチングさせることが重要であり、行政観光部局や民間旅行業界等との連携方法を模索していく必要がある。
その他、本部への意向等	平成 20 年度は上記の C P D 活動に加えて、以下を実施していく。 ・修習技術者への支援 ・小学生のための夏休み自由研究教室 ・全国若手技術士との交流 本部への意向 ・支部会員が議論に直接参加できる機会の増加 (wiki による PE 表紙意見聴取は評判がよかったです)

青年委員会と私、そして期待

修習術士支援実行委員会委員長 小林 進
(CPD 認定会員 情報工学/総合技術監理)

日頃、青年委員会には修習委員会の活動にご協力を頂き大変感謝しています。特に、修習委員会のビッグイベントともいわれる1月のガイダンス、3月のキャリアアップセミナー、11月で実施する一泊二日の研修会は、青年委員会の協力なくしては実施できません。これからも青年委員会とはより良い協力関係を築きながら修習技術者にIPDを提供し続けていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

青年委員会と修習委員会の関係は修習委員会の前身である技術士補対策委員会の時代から続いています。私自身も平成8年度の一次試験合格者歓迎会で青年技術士懇談会（青技懇）のお世話になりました。その後、青技懇との接点は殆ど無かったのですが、部会・故岡本邦彦先生が主催していました複合先端技術研究などに参加している中で青技懇の存在を意識するようになりました。しかし、なかなか青技懇の会合に参加する糸口がなかなか見つからず、飛び入りで忘年会に参加した記憶があります。これが契機となり、青技懇との繋がりが生まれ一次試験合格者歓迎会のパネリストを依頼されました。そして、平成10年に青技懇の幹事に就任して技術士補対策委員会の支援を担当しました。このように考えると、青技懇の活動に加わらなければ技術士補対策委員会、修習委員会の活動に関わる機会が無かったと思います。

青技懇の幹事に就任してからは、自分自身が青技懇の会合に参加する機会が見つからなかった経験から準会員Bにも参加を呼びかけました。また、準会員Bが参加しやすい会合にするために、準会員Bの視点で企画した例会も行いました。第1回目を担当された二人の準会員Bの方は開催日が近づくに伴い、胃を痛くされたと思います。それだけに会合が無事終了したときの二人の笑顔は、とても美しく今でも忘れられません。

現在、修習委員会の委員長を務めています。委員会運営の根底にはこのような自分の経験があります。苦労して一次試験に合格して日本技術士会に入会しても、活動の場が見つからない準会員Bは大勢いると思います。青年委員会ではそのような方を委員補佐として活動の場を提供しています。委員補佐として日本技術士会の中で様々な経験をされて技術士となり、その経験を活かして幅広く活動することは非常に理想的だと思います。そのため、修習委員会で毎月第二土曜日に行っている研修会を技術士会の中でハブ(HUB)的な位置付けにしたいと考えています。すなわち、準会員Bの方がこの研修会に参加することにより部会・プロジェクトチームとの接点ができ、様々な活動に加わる機会も提供したいと考えています。

平成12年の技術士法の改正により JABEE 認定課程修了者は一次試験合格者と同等とみなされ、現在約7万人いるといわれています。日本技術士会としてはこの7万人の修習技術者を受け入れて技術士に導く必要があります。そのため、KK委員会と協力して修習制度、技術士制度の説明会を強化する活動を立ち上げました。これは、7万人の修習技術者の目を日本技術士会に向かせる外向けの活動です。一方、7万人の修習技術者の目が日本技術士会に向いたときの受け入れ準備も必要です。この外向けの活動と内向けの活動は車の両輪のようなものであり片方だけでは前に進みません。この両輪を動かして前に進めるには青年委員会の協力が必要です。1人でも多くの修習技術者を技術士に導くために、引き続きご協力をお願いします。

以上

【 例 会 活 動 報 告 】

H19年度月例会報告

青年技術士交流実行委員会年間計画表(平成19年9月～平成21年3月)

回数	WG種別 カテゴリー 実施日	研鑽WG								
		30代Gr			40代Gr		修習Gr		各Gr共通(交流例会)	
		若手技術者向けスキルアップ講習 ビジネススキル 技術者倫理	ビジネススキル 修習Grと交互に実施	国際関係の例会	出前講座関連 (社会への情報発信)	マネジメント講座	ビジネススキル 30代Grと交互に実施	フットサル大会	サロン/人材交流系	見学会系
2	平成19年9月								新人メンバー講演会 (委員・委員補佐) 9/22(土)	
3	平成19年10月			香港土木学会国際交流会 10/31(水)18:30～20:00						
3	平成19年11月								交流サロン 国際人脈の作り方 11/3(土)17:00～19:00	
1	平成19年12月			国際交流講演会 ～IF YOU WANT IT～ 12/22(土)14:00～						
2	平成20年1月					第1回 ワークライフバランス講座 1/19(土)10:00～				
5	平成20年2月				第1回 博物館・科学館の出前講座に学ぶ 2/15(金)18:30～				交流サロン 人脈形成法 2/2(土)17:00～19:00	
1	平成20年3月	第1回 事例に学ぶ技術者倫理 3/22(土)13:00～16:30					第1回 タイムマネジメント 3/8(土)9:00～			
4	平成20年4月		第2回 メンタリゼーション研修会 4/26(土)10:00～12:00					第1回 フットサル交流 4/5(土)12:40-15:00		
4	平成20年5月			第1回 国際マナー 5/31(土)14:00～16:00		第2回 大学院と社会人教育 5/17(土)PM			交流サロン 銀座ビードロ 5/10(土)17:00-19:00	
7	平成20年6月		第3回 経営管理者情報交換会 6/26(土)10:00～12:00	第2回 海外技術者との 6/26-7/4 交流会(豪州)	支部交流研修会に て事例発表(本部・ 支部)		第3回 グループワー ク・リーダーシップ・ブ レゼンテーション6/7 (土)13:00 - 17:00			
3	平成20年7月	第2回 技術者倫理セミナー 7/12 修習委員会と 共催			第2回 企画立案その1					技術士向け工場見学会 (キュービー工場) 日程未定
4	平成20年8月		第4回 ネゴシエーション コミュニケーション ディベート		第3回・4回 企画立案その2 イベント開催				ピアパーティー (二次試験お疲れ様会) 8/3(日)時間未定	
3	平成20年9月							第2回 日韓会議直前大会		
6	平成20年10月			第3回 技術英語 工業英語講座 (修習Gr例会と共 催)		第3回 異業種セミナー	第5回 技術英語 工業英語講座 (修習Gr例会と共 催)			技術士(家庭技術)/向け工場見学会 見学先未定
4	平成20年11月								交流サロン	
6	平成20年12月	第3回 産業遺産に学ぶ技術者倫理 (見学会と同時開催)	第6回	第4回 国際交流報告会	本部地区の活動事例発表	第4回 独立開業セミナー				
1	平成21年1月									
2	平成21年2月								交流サロン	
1	平成21年3月				青年部理科教育支 援の活動事例全国 大会(東京開催)					
イベント数		3	3	6	4	3	2	7	4	1

H19年度月例会報告

改訂V2: H20.06.13 初版H19.10.29

国際WG					支部交流WG		シンクタンクWG	50周年記念 シンポジウムPro	共催行事	その他
香港Pro	若手技術者 会議派遣	日韓交流	豪州交流	情報発信	本支部連絡会 全国大会	ネットミーティング				
		日韓会議(9/30-10/2) 親善サッカー 日韓青年分科会								
香港土木学会国際交流会 (10/31)					全国大会青年分科会 支部交流研修会 (10/16-17)				CPD中央講座(10/27) 「リスクマネジメント実務講座」 生涯教育推進実行委員会	
	CAFEO/YEAFEO (11/26-30;セブ) 松本委員							11月度運営委員会にて 開催の可否決定 11/17(土)	修習技術者セミナー (11/16-17) 修習委員会	
										フットサルチーム結成
									一次試験合格歓迎会 修習委員会 1/27(土)PM-	
		新潟会議(平野委員)								
							政策委員会への 定款の提言:3/14 中嶋副委員長			
	CAFEO/YEAFEO 派遣者説明会									月刊PE5月委員会の 紹介記事作成・掲載
		ソウル会議(平野委員)						試験運用5/31		
		東京会議6/4特委員長来日 新潟会議6/5-76 新潟会議 6/26-7/4(7ニ-委員長来日)	豪州技術者招待 6/26-7/4(7ニ-委員長来日)		青年委員会全体会合兼 支部交流研修会(関東) 6/28(土)~29(日)		意見収集(ハブリクエスト) 第1回試験運用6/28-29			月刊PE500号記念 座談会メンバー 500号記念誌執筆 者推薦
香港訪問 8/14~16または 8/21~23										
		日韓会議(新潟)9/30-10/2 親善サッカー 日韓青年分科会						試験運用	9月中旬開催	
				国際協力FES出展	全国大会青年分科会 支部交流研修会 10/16-18		意見収集			
	CAFEO/YEAFEO (タイ バンコク)							試験運用	修習技術者セミナー 修習委員会	
	WEC (ブラジル)								12月以降にスライド	
									一次試験合格歓迎会 修習委員会	
4	5	1	1	3	3	2	1	5		

H19年度月例会報告

平成19年4月～H20年6月の参加者数の概要

2008/6

青年委員会本部地区の活動内容と参加者実績の概数(5人単位切り上げ)

No	例会実績・計画	新たな取組み	内容	分野					参加実績	新たな取組み
				研鑽	国際(*1)	国際(*2)	支部	運営委員会		
1	2007/4/14(4月例会)		例会:八景島親子水族館見学会	30					15	
2	2007/4/21		アセアン派遣者の公募実施		10					
3	2007/5/26		例会:アサヒビール工場見学会	5						
4	2007/5/28～6/1		豪州技術士会訪問		2	50				
5	2007/6/16～17		支部交流研修会(1泊2日):東京				40	30		
6	2007/7/7(7月例会)		新メンバーによる講演会	30					20	
7	2007/8/5(8月例会)		ビアパーティー	25						
8	2007/9/22(例会)		新メンバーによる講演会	30					15	
9	9/30～10/1(韓国国際交流)		韓国青年分科会交流会/ソウル市		30	100				
10	10/17～18(全国大会)		全国大会青年分科会(北陸大会)				90	15		
11	2007/10/27(10月例会)		倫理講座(CPD委員会共催)	150					15	
12	2007/10/31(香港来訪対応)		香港土木学会学生部と交流		30	10				
13	2007/11/3(11月例会)		サロン例会	10						
14	11/17～18(11月例会)		修習セミナー(修習委員会と共催例会)	25					15	H19.4～12
15	11/26～29:アセアン交流		アセアン交流(フィリピン・島)		1					参加実績
実績合計:H19.4～12				305	73	160	130	125	668	292
16	2007/12/22		国際交流成果報告会	30					15	
17	2008/1/19		経営管理コース-技術者のうつ病	20					15	
18	2008/1/26		第1次試験合格者歓迎会	250						
19	2008/2/2		人材交流(サロン)	30						
20	2008/2/23		理化教育支援-博物館の出前講座・事例	20					15	
21	2008/3/8		タイムマネジメント	30						
22	2008/3/22		技術者倫理研修-事例体験コース	10					15	
23	2008/4/6		フットサル(代々木公園グラウンド)	20						
24	2008/4/21		経営管理コース-セレンドイビティ研修	20					15	
25	2008/5/10		人材交流(サロン)	10						
26	2008/5/17		経営管理コース-学位取得研修	10						
27	2008/5/31		国際交流-国際マナー研修	30					15	
28	2008/6/28		経営管理-管理職情報交換会	20						
29	2008/28-29		本支部交流研修会	40		1	15	25		参加予定
実績合計:H19.4～H20.6				540	0	1	15	115	556	170

*1:日本 *2:関係国

H19.4～H20.6

実績見込	新たな取組み
1224	442

7月例会報告

- ・ 例会名： 若手技術者講演会
- ・ 日 時： 2007年7月7日 14:00～17:30
- ・ 場 所： 神谷町技術士会葺出ビル5F会議室
- ・ 参加者： 21名
- ・ 内 容： 若手青年技術士の活躍が期待されております。今回の例会は、若手青年技術士の3名（青木卓也、倉井真理、松本正人）の講演会と、講演会終了後に講演者3名をパネリストに、会場の参加者を含めてパネルディスカッションを開催した。

1. 講演会（14:00～15:50）

テーマ：「若手青年技術士、抱負を語る」のもとに3名が講演をおこなった。

<講演1> 松本正人 建設部門、APEC Engineer(Civil)

- ・ 米国留学：Development of Lifetime Maintenance Strategies for Highway Structure
- ・ IRF Fellow's Alumni Association. Regional Coordinator, Asia/Australasia Region.
- ・ グローバルエンジニアを目指すことは「技術道」を極めることに通じるねではないか、

<講演2> 倉井真理 建設部門、(ピアノ歴約30年)

- ・ 専門技術：パークマネジメント、緑地環境評価
- ・ 国際交流（マレーシア技術者、CAFEO(ラオス)、英語版委員会パンフレット等）
- ・ 庭園、公園管理運営について、いくつかの事例をもとに説明

<講演3> 青木卓也 生物工学/衛生工学/総合技術監理部門、他に環境関係の資格多数

- ・ 学生時代は砂漠の緑化について研究（バックグラウンドは農芸化学）
- ・ 現在は建設・環境に関するコンサルティング業務に従事
- ・ 国内だけでなく海外でも仕事をしたい（砂漠の緑化、排出権取引、廃棄物リサイクル他）

2. パネルディスカッション(16:00～17:30)

「社会が求める技術士とは」をテーマに、コーディネータを新井靖典がつとめ、会場の皆様を含めて様々な議論を交わす。（倫理の問題、コミュニケーション能力、内部告発、談合、プロとアマチュアの違い、安全対策、技術士の地位向上等）社会に貢献する仕事を誠実に継続して行なっていくことが技術士の地向上につながるという認識に達した。

<感想>

若い3人の講演者が共に海外業務に関する関心が高いのが印象的でした。また、技術士が社会から求められるには、正しい倫理観にもとづき、たゆまぬ研鑽を行なっていくことが大切ですね、若い技術士と共に皆で頑張っていきましょう。

（掛川昌俊 記）
以上

H19 年度月例会報告

8 月例会報告

例会名 : 納涼ビアパーティー
日 時 : 8 月 5 日 (日) 19:00 ~ 21:00
場 所 : 京王アサヒスカイガーデン (新宿京王百貨店屋上)
参加者 : 32 名
内 容 : 毎年恒例の技術士第二次試験終了後に開催されているビアパーティー

< 感 想 >

本例会は、参加者各自の新しい交流チャンネルの発掘および、会員同士の交流を目的にし、毎年技術士第二次試験終了後の夕方から開催している。参加者には技術士第二次試験受験者も多く、今年度から改正された二次試験の試験内容が話題に上った。部門により大幅な試験内容の変更があったようで、とまどいの声が多く聞かれた。

また、今回の例会には、青年委員会と多くの共催行事を実施している修習技術者支援実行委員会の小林委員長も参加してくださり、今後の委員会間の連携などについても話し合わせ大変有意義な会となった。

(新井靖典 記)

例会の様子



9月例会報告

- ・ 例会名 : 新人委員による講演会
- ・ 日時 : 2007年9月22日 14:00~17:15
- ・ 場所 : 日本技術士会 会議室(葺手第二ビル5F)
- ・ 参加者 : 20名
- ・ 内容 : 企業内技術者として、技術士・技術士補(修習技術者含む)を社会にアピールしていくことが求められています。今回の例会は、新人委員3名(中島幸宏、鈴木史人、吉田均)による講演会と、講演会終了後に講演者3名に対しての質疑応答と、会場の参加者を含めて技術士の地位向上を高めていくにはどうすべきかを議論した。

1. 講演会(14:00~16:30)

題目:「企業内技術者として、技術士をどのように社会にアピールしていくか」

<講演1> 鈴木史人 経営工学部門(若手技術士補)

会社の業務で携わる半導体に関する概要説明の後に、企業内技術士に話が及ぶ。企業が目指すものの重要性を主張され、企業の戦略マップをバランススコアカードで示された。また、技術士のSWOT分析について発表し、自分はどうかを示された。

<講演2> 吉田均 上下水道部門(経験豊富技術士補)

「企業ならば、ビジョナリーカンパニーを目指せ!」という題目のもとに12の新神話について紹介された。ビジョナリー(Visionary)とは先見的、未来志向という意味で「ビジョナリーカンパニー」とは理念を掲げて、変化に挑み、50年以上優良である続ける企業とのことであった。

<講演3> 中島幸宏 情報工学部門(技術士)

最近読んだ本「ノウアスフィアの開拓」から話しを「テクノスフィアの開拓」へと展開して考えを説明された。仕事は地理情報システムに関する業務に携わっており、レーザープロファイラーの活用例を紹介してくれた。また、技術士を如何にアピールするかについて「信頼される事を繰り返す」「テクノスフィアの開拓を」他の提言をされた。

2. 質疑応答、議論(16:35~17:15)

会場から質問は「技術士に係ることでどれだけ良い物が供給できるか」「何をもちて技術士をアピールしてきたか」「技術士と他の技術者と違いを出せるところは」他であり、それに対して3名の講演者が返答する中で、技術士の資格をどう活用していくか、また、技術士の知名度を向上させていくことが重要であるという認識に至った。

<感想>

業務経歴、技術士の部門が異なる三名の新人委員から三者三様の講演があり、異なった視点から幅広い内容について話が聞けて有意義でした。技術士を社会にどうアピールしていくかについては、更に皆様と議論を重ねて実践していきたいと思います。

(掛川昌俊 記)
以上

12月例会報告

例会名： 国際交流成果報告会
 日時： 平成 19 年 12 月 22 日(土) 午後 2 時 00 分～
 場所： 日本技術士会荳手第二ビル 5 階
 参加者： 32 名
 例会目的： 青年委員会国際交流成果を報告すると共に、次の参加者・派遣者となりうる若手技術者の発見と育成のため、国際交流のハードルの高さを感じさせない、交流の楽しさを実感できるような参加型例会とした。

<スケジュール>

青年委員会国際交流成果報告会 ・国際交流概要説明 <倉井> ・日豪交流報告 6月 <掛川> ・日韓会議報告 9月 <平野> ・香港 ICE 交流報告 10月 <小松> ・CAFE025 / YEAFE014 報告 11月 <松本>	14:00～15:35
参加型セミナー ・国際交流レベルアップレクチャー ・ディベート入門&グループディベート実践 ・ホスト国として日本の技術・文化を紹介するワークショップ	15:40～17:45
各コース成果発表	17:15～17:45
懇親会兼忘年会	18:00～20:00

<内容>

恒例となった青年委員会国際交流成果報告会を開催した。

今年は新たに香港との交流も加わり、計4国(チャンネル)の報告をすることができた。

また参加型トライアルセミナー3本、年末ということで懇親会兼忘年会も加え、盛り沢山の内容となった。

参加型セミナーのプログラム各々の内容は下記の通り。

国際交流レベルアップレクチャーは松本氏が講師となり、留学経験や海外業務経験のある9名がディスカッションを展開した。

ディベートコースは始めにディベートのルールを学び、10人が『首都移転』についてディベートを実践した。審判は前田氏、松嶋氏が務めた。

判定結果は移転賛成の勝利であった。

ホスト国ワークショップは田村がコーディネータ役を務め、外国(マレーシアと設定)から技術者団が来日したことを想定し、プランを7人で考えた。

始めにマレーシア情報や海外交流経験についてディスカッションし、学んだこと共有した情報を元に各自想定プランを策定し、グループ内で発表をした。

最後に各セミナー3本の代表者が成果発表を行い、例会を終了した。

H19 年度月例会報告

< 感 想 >

青年委員会の国際交流も年々充実してきており、今年は更なるステップアップとして受身ではない例会内容を加え、開催した。

国際交流に必要なスキルのひとつにものおじせず自分の考えを積極的に伝える、ということが挙げられる。

今回の例会参加者はまさにそれを実践してくれた。今後の国際交流においてもこのさやかな経験を活かしていただけるものと信じている。

(田村裕美 記)



国際交流活動報告会



ディベートグループ



国際交流レベルアップ術グループ



ホスト国ワークショップグループ

1 月例会活動報告

マネジメント講座（ワークライフバランス）をテーマに技術者の働きすぎ、仕事の家庭の生活の両立についてとりまとめ発表した。

ワークライフバランスについては、転職相談を受ける立場から私が発表とは別に女性からの相談を受ける機会の多い府中市女性センターの相談員から発表していただいた。

1. 活動概要

- (1) 日時 平成 20 年 1 月 19 日（土）10：00～12：00
- (2) 場所 （社）日本技術士会 荻出第 2 ビル 5 階 AB 会議室
- (3) 発表者：五座由洋（株式会社クリエイティブインターナショナル）
荻野美香（スクエア 2 1・府中市女性センター）

2 講座内容

2-1 人材コンサルタント（五座）による講座

マクロ経済の動向確認 15 分

転職理由、残業発生のメカニズム、個人、管理職、管理職の残業削減策 15 分

ワークライフバランスに関する政府の施策の確認 5 分

エンジニアの家庭問題、人材採用策、人材流出（退職）防止策の考察 15 分

休憩 10 分

2-2 府中市女性センター相談員による講座

専業主婦の悩みの紹介（5 分）

職場でのセクハラ相談の紹介（5 分）

女性社員定着（長期雇用）のためのポイント（5 分）

離婚原因の紹介（10 分）

長時間勤務の夫に望む最低限のポイント（10 分）

2-3 質疑応答（30 分）

主な質問内容は、激務の夫を持つ主婦の悩みとその対策、個人が残業を減らすことの実現性、企業の人材流出を防ぐ対策

（五座由洋 記）

2月例会報告

例会名 : 博物館・科学館の出前講座に学ぶ

日時 : 平成 20 年 2 月 15 日(金) 午後 6 時 30 分 ~ 8 時 10 分

場所 : 日本技術士会荻手第二ビル 5 階 C・D 会議室

参加者 : 22 名大人

内容 : 出前講座としての理科教育支援活動のノウハウを蓄積するために、先駆的に取り組んでいる博物館・科学館業界から講師を招き、講演会を開催した。公立博物館(地域博物館)自然系学芸員と公立科学館職員(管理職職員と調整中)による各館の活動紹介(事例紹介)。出前講座講師本人による講演と出前講座をコーディネートする職員による講演を行なった。

<例会スケジュール>

午後 6 時 30 分 ~ 7 時 00 分 日野市郷土資料館 学芸員(自然担当) 峰岸未来氏

7 時 00 分 ~ 7 時 10 分 質疑応答

7 時 10 分 ~ 7 時 50 分 多摩六都科学館 管理運営課長 神田正彦氏

7 時 50 分 ~ 8 時 00 分 質疑応答

8 時 00 分 ~ 8 時 10 分 全体質疑応答

<内容>

日野市郷土資料館 学芸員(自然担当) 峰岸未来氏

出前講座事例の講演。自然関係・民俗関係などが出前講座の内容。

多摩六都科学館 管理運営課長 神田正彦氏

出前講座事例の講演。いくつかのプログラムを紹介いただくとともにその時に使用するキットの一部も持参していただいた。

質疑

各講師へそれぞれ活発な質疑が行なわれ、出前講座についての意見交換がなされた。

<感想>

金曜の夜開催にもかかわらず、少なくない参加者であった。40 代グループの企画ではあるが、それでも若干参加者の年齢層が高かった感があった。

活発な質疑が出る例会内容であったので、出前講座シリーズの 1 回目としては成功と考えている。

参加者からの質問内容から、出前講座に既に取り組んでいる技術士もいたことが分かった。これまで取り組んだ経験のある参加者やそうではない参加者ともに有益な情報を得ることができたと思われる。また、後日各講師からも「こちらも勉強になった」という内容の言葉をいただいている。

例会終了後、有志で講師を囲んだ懇親会を実施した。一般参加者も 3 名参加し、深い情報交換等を行なった。

(柳澤 剛 記)

「若手技術者・修習技術者 キャリアアップセミナー」 実施報告書

例会名 : 若手技術者・修習技術者 キャリアアップセミナー
 日時 : 3月8日(土) 9:00~16:30
 場所 : 日本技術士会 荳手第二ビル5階 会議室
 参加者 : 27名

<スケジュール>

司会	修習技術者支援実行委員会 委員		松本 正人
挨拶	修習技術者支援実行委員会委員長	9:00~9:10	小林 進
1	演習課題の説明	9:10~9:30	
2	講演 「修習技術者のキャリアデザインとキャリアパス」	9:30~10:15	
	講師 技術士(情報工学部門・総合技術監理部門)		奥田 孝之
3	講演 「修習の意味と実践 タイムマネジメントの重要性」	10:15~11:00	
	講師 技術士(情報工学部門・総合技術監理部門)		小林 進
4	演習 「業務遂行能力 タイムマネジメント」	11:00~16:20	
	演習インストラクター 技術士(建設部門)		松本 正人
閉会挨拶	青年技術士交流実行委員会委員長	16:20~16:30	時合 健生
	(演習の途中でグループごとに昼食)		

<内容>

(1) 講演

開会挨拶の後、オリエンテーションとして、後半部分の演習課題の説明を行った。オリエンテーションに続き、奥田顧問より「修習技術者のキャリアデザインとキャリアパス」をいう題目で講演をいただいた。講義を通じて、受講者の皆さんに技術者としてのキャリア形成について知ってもらうことができ、今後の修習活動が何のために必要なかを理解してもらうことができたのではないかなと思う。続いて、小林委員長に「修習の意味と実践 タイムマネジメントの重要性」という題目で講演をいただいた。修習とはどういうことなのか、修習を行うための時間を確保するためにはどのようにして時間管理をすれば良いか、自分のモチベーションをどのように高めていけばよいか、などについて解説していただいた。

(2) 演習 「業務遂行能力 タイムマネジメント」

午前中の講義において学んだタイムマネジメントの重要性をもとに、日々の業務においてどのようなタイムマネジメントを行い、研鑽活動や人脈形成を行う時間を確保できるかをグループで議論してもらい、最後に成果を発表してもらった。演習課題は下記とした。

『あなたが日々の業務を例にとって、下記の点についてグループ内で話し合ってください。』
 普段から取り組みたいと思っているが、業務が忙しくて後回しになっていることを挙げてください。

日常業務の中で、業務の効率化を図る必要があると思われる点について、挙げてください。

で挙げた事項に対し、どうすればそれが解決できるかグループで話し合ってください。

の結果確保できる時間を使って、明日からどのようなことをしたいか各自で決意表明して下さい。

グループは、部門や年齢がなるべく偏らないように考慮して構成した。1グループあたり5-6名程度となるように計画したが、当日複数名が欠席したグループもあり、結果的に他のグループよりも人数の少ないグループができてしまった。当日の出欠状況を見て、グループ間の人数を適宜調整する必要があった。

また、1グループに2-3名、修習/青年委員または委員補佐がコーディネータとして加わり、必要に応じて議事進行の補助やアドバイスなどを行った。

最後に、青年技術士交流実行委員会の時合委員長から閉会挨拶を行い、セミナーを終了した。

<感想>

(1) 講演

- 講演の前のオリエンテーションで本日の課題を説明し、後に講演で印象に残った点を話し合ってもらおうと伝えておいたので、講演をより集中して聞くという効果があったのではないかなと思う。
- 講演を聞いている間もグループ討議の中でどのような発言をすれば良いかを考えることができたので、グループ討議への導入がよりスムーズになったのではないだろうか。

(2) 演習 「業務遂行能力 タイムマネジメント」

- セミナーの最初に演習課題を発表することにより、講義時間、ランチタイムなど参加者に事前に考える時間を与え、グループ討議への導入をスムーズに行うことができた。
- 最初の自己紹介からアイスブレイキングまでをランチタイムまでに行うというマイルストーンを設けたので、各自が最初から積極的に発言する必要性に迫られ、ランチタイムも利用してグループメンバーとのコミュニケーションをスムーズに行うことができたのではないかなと思う。
- どのグループも課題の趣旨を理解して時間内に発表資料を仕上げることができ、よい発表ができていた。
- 他の人の意見や他のグループの意見を聞いて参考にしてもらい、明日から受講者の皆さんが時間の使い方を工夫して自己研鑽、趣味、家族とのコミュニケーションのための時間を作り出していただくことができれば良いと思う。なお、グループ討議の内容を復習してもらうため、発表していただいたパワーポイントを PDF 化してメール配信することを提案し、満場一致で了承された。
- 各グループのプレゼンテーション終了後、直前に発表したグループが中心となってコメント・質問を行うというルールを設けた。これにより、同じ人ばかりが質問したりするということがなくなるという効果、質問が出るまでの時間が短縮されるという効果、質問するためにいつもより集中して聞くようになるという効果が得られた。
- プレゼンテーションの時間は 10 分（発表 8 分 + 質疑 2 分）と決めていたが、大幅に時間をオーバーするグループが 2 グループ程度あった。質疑の時間も限られているので、時間がオーバーしそうになったら質疑を締め切って終了するというのもプレゼンテーションの技術であり、タイムマネジメントのハウハウである。そのことについても指導を行った。



講演 (奥田顧問)



講演 (小林委員長)



グループ討議 風景

(文責：松本正人)

第 1 回 事例に学ぶ技術者倫理 報告

例会名 : 第 1 回事例に学ぶ技術者倫理
日時 : 3 月 22 日 (土) 13 : 00 ~ 16 : 35
場所 : 日本技術士会 荻手第二ビル 5 階 会議室
参加者 : 15 名
目的 : 修習技術者および若手技術者が具体的な事例を題材とするグループ討議を通して倫理を考え、実際の業務で役立てること

< スケジュール >

開会挨拶・講師紹介・グループ分け説明 ケースメソッドと課題の説明	13:10 ~ 13:15	井上 謙 岡田恵夫氏 (建設部門・総合技術管理部門)
課題 1	13:25 ~ 14:20	
課題 2	14:20 ~ 15:15	
課題 3	15:15 ~ 16:05	
全体討議・質疑応答	16:05 ~ 16:30	
閉会挨拶	16:30 ~ 16:35	時合委員長

< 内容 >

- ケースメソッドと課題の説明
岡田講師より、ケースメソッドによる倫理講習の考え方、進め方が説明された。題材は「三菱自動車リコール・欠陥隠し事件」であった。
- 課題 1
品質管理部の新任部長 A がリコール隠しリストを発見した状況での取るべき行動についてグループ討論し、発表した。
- 課題 2
人身事故につながった車輪脱落事故について、部長 A は欠陥による可能性が高いとの報告を行ったところ、会社の公式発表は異なっていた。このときの行動について議論した。
- 課題 3
社内システムが機能しなかった原因 3 つと、改善できたであろうチャンスについて議論した。
- 会場からの感想
 - ・ システムを生かす必要性を感じた。
 - ・ 変えるときには人を変えるが大切。
 - ・ システムに依存せず自由に行動するときには、倫理が必要。
 - ・ ホウ・レン・ソウをマッチさせる組織作り、組織から距離を置く姿勢も必要。
 - ・ 技術が外部からどう受け取られるか、監査が大切。
 - ・ 嘘では解決できないことを再確認した。
- 岡田講師からの総括
 - ・ 部長 A は 42 歳であること、自分がその年齢でその立場であれば、事例のようにしてしまいかも知れない。私たちは、事例を生かさなければならない。
 - ・ 江戸時代からある問題でもある。三方よし「売り手よし、買い手よし、世間よし」
 - ・ みんな善人では社会は成り立たない、泥棒もいる。(松下幸之助)
そのリスクを如何に抑えるか? 如何に短期に、時には即時に。
 - ・ 談合の是非は別として、法治国家である以上、法律違反なら、やってはいけない。

H19 年度月例会報告

< 所感と反省点 >

- ・ PR 期間が短かったことで、一般参加者が少なかったことは残念であった。しかしながら委員を含めて 4 グループ編成ができた上、最後に全員が感想を述べる機会を得られたことで、効果の高いセミナーだったと言える。
- ・ 会議室の広さを確認しておらず、B 会議室のみで当初は窮屈さが懸念された。幸い、C/D 会議室が開いていたことから、グループ討議に C/D を使用し、発表に B を使用する対応ができた。会場の広さは受け付けられる人数・グループ数に直結するため、誰が予約したかに関わらず、例会担当で確認が必要と感じた。
- ・ 事例解説は、各個人でその場での読み込みとなった。事例背景の説明は詳細で長文だったことから、事前配布あるいは講師または担当委員による概要説明をしたほうがよいとも考えられる。
- ・ OHP による発表にも利点があると思うが、消耗品の準備や筆記の時間を考えると、やはり PC + パワーポイントがよいのではないだろうか。事例解説と合わせて、講師との検討が必要と感じた。



岡田講師



熱心なグループ討議



発表の様子

以上（記録担当 中嶋幸宏）

4 月例会 フットサル交流会 報告

フットサル愛好会の活動状況

- ・2007 年 12 月 IPEJ フットサル愛好会立ち上げ
- ・2008 年 1 月 メンバーのメーリングリスト (Google group 活用) およびブログ作成
- ・2008 年 1 月- 自主練習 (皇居 1 周ランニング) を開催中。
(目標 = 愛好会メンバー全員で、日韓戦までに皇居を延べ 100 周 (現時点では 21 周))
- ・2008 年 3 月 8 日 例会にて約 30 名にチラシ配布と勧誘案内
- ・2008 年 3 月 16 日 (日) 第 1 1 回 東京・荒川市民マラソン参加

第 1 回フットサル練習会 (2008 年 4 月 5 日 (土))

時間 = 12 : 40-15 : 00 (終了後、代々木公園にて花見会)

参加者 = 16 名 (お花見会 = 20 名)

フットサル交流



お花見会 (@代々木公園)



感想

参加者はサッカー経験者が多く、また、20代~30代前半ぐらいの比率がかなり高い例会となりました。14:55 に終了のホイッスルを吹くまで、ボールを追いかけるのをやめる人はいませんでした。

このメンバーの多くが新潟の日韓戦に参加してくれれば、韓国と互角の勝負ができると確信しました。

その後、シャワーを浴びて代々木公園に移動し、お花見会をしました。田村さんに周到に準備していただいたおかげで、とても楽しいお花見会にすることができました。

お花見会の最後に、本日の「MVP 賞」の表彰を行いました。

サッカーの技術だけでなく、献身的にチームに貢献する姿勢なども総合的に評価し、藤井さんと山崎さんに MVP を送りました。

日韓戦に向け、本格的にスタートを切った日本チームの今後が楽しみです。

4月例会報告

日時：平成 20 年 4 月 26 日（土）10:00～12:20

場所：技術士会荻手第二ビル 5 階

参加者：一般参加者 16 名、委員会参加 8 名、計 24 名

内容：1. 講演「セレンディピティと Serendipity Card の使用方法」澤泉 重一富山県立大学
客員教授 2. 演習グループ討議 3. グループ発表 4. 質疑応答

紹介文：昨今“セレンディピティ”という言葉は、我々技術に携わる人々の間でも盛んに聞くようになりました。4月例会では、ビジネススキル講座 - 業務遂行のヒントとして、「偶然からモノを見つけだす能力」の著者澤泉重一富山県立大学客員教授から「セレンディピティと Serendipity Card の使用方法」の講演をしていただき、その活用と演習まで行いました。

事前にメールしました「参加の皆様へのお願い」にしたがって可能な方は、当日までいくつか仮説を立案してもらい、臨んでもらいました。演習では、各自が仮説立案をして、グループ討議し、グループとしての偶然の出会いが生じるか（生じたか）について、OHPシートにまとめグループとして発表を行いました。

参加者の皆様が聴講するという受身のスタイルばかりでなく、グループ討議・発表を通して、参加・実践型の例会により、実際の現場・日常生活で役立てていただけることを願いました。

感想等：一般参加者の数が、16名とセレンディピティへの関心の高さが、高いことを先ず実感しました。心配しましたグループ討議では、事前にメールしました「参加の皆様へのお願い」が功を奏してか、熱心な討議ができました。

アンケート結果から、意外と思われた点は例会の開催時間帯についての質問で、ダントツトップが「土曜日午前」ということでした。また、初めての参加者が一番多く、そういった方が今後例会参加のリピーターになってもらうことが課題と思います。年齢層で言いますと、40～50代の参加者が圧倒的に多いことも驚きでした。偶然を察知する能力は、ある面では年齢層を超え、相乗効果が発揮できるのかとも思います。

最後に、開催にあたりまして委員の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。（吉田 均記）

大学院と社会人教育（2008/5/17） 報告

理科教育支援は、一般的には小中高校生の事例が多く実施・報告されている。青年委員会では研鑽の一環として、「理科教育支援活動」を実施しており、小中高校生だけでなく、修習技術者・JABEE 過程修了者（= 学生の場合）及び（準）会員である社会人も対象としている。今回のテーマである「大学院における社会人教育」も、広い意味では上記の活動に含まれる。従来の社会人生涯教育と大学院教育に疑問を投げかけ、新たなプログラム作りに携わっている齊藤義順氏に講演いただいた。

あわせて、青年委員有志による社会人の博士取得の体験談があった。

1. 概要

日時：2008 年 5 月 17 日(土) 13 時 30 分～16 時 30 分

場所：日本技術士会 荻出第二ビル B 会議室

主催：青年技術士交流実行委員会

講師：齊藤義順氏（化学部門技術士）、時合健生氏、前田秀一氏（青年委員会委員）

担当：前田、時合、田村、吉田、仁田、石関、鈴木（史）

参加者：一般参加 9 名、委員会参加 7 名、計 16 名

2. 資料

- ・ 社会人技術者生涯教育体系（齊藤氏）
- ・ 横浜国立大学大学院工学府 PED プログラムパンフレット（齊藤氏）
- ・ アンケート（青年委員会）

3. 内容

3. 1 講演「社会人生涯教育と大学院教育改革」：齊藤義順氏（13:35～15:10）

企業において、生産部門のリーダーから社長までを経験した。企業の中で、技術系社員に対する教育を試行してきたが、担当部署では体系化でききらず、必ずしも十分な状況ではなかった。特に昨今の若者には、問題解決能力はあるが、問題発見能力まではないことが気になっていた。

そこで、問題発見能力まで備えた若手技術者の育成を目標に、大学院教育の改革に取り組んでいる。横浜国立大学院における PED プログラム（*Practical Education Program*）は、産業界で即戦力となる「実務家型技術者・研究者」を養成する点で、従来の「学理を探究する研究者」の養成と一線を画する。

社会人が大学院で学ぶ場合、所属する企業の理解など、クリアしなければならないハードルも多いと考える。やる気のある人に対しては、ハードル（学費免除、最短 1 年間で取得等）を取り除くお手伝いをするので、是非相談にきてほしい（連絡先 PED 事務局 045-339-3809）。



齊藤氏による講演の様子

（案内：http://www.eng.ynu.ac.jp/ENG/jpn_in/PED-leaflet_08.pdf）

3.2 博士取得体験談「きっかけ、工夫・苦労及び取得の感想とご提案」: 時合健生氏(15:20~16:00)

企業において約7年間の開発業務の結果を論文(対象論文11報)にして、工学博士号を取得した。研究所から営業(本社需要化直売営業)に転勤した2年間で、結婚、長女誕生、技術士受験での取得など最も多忙な時期と重なり大変ではあったが、勢いで短期間(実質1年半)に取得し充実していた。

会社業務を活用しながら、学位をとるためのコツとして以下が挙げられる。

- 同じテーマに2~3年従事する 論文ネタができる
- 良き師とのめぐり合い、特に意気投合できる人を見つける
- 強い取得意欲を持つ、挫折に負けない

今後何かにチャレンジするときの原体験にもなるので、その気のある人にはぜひ学位取得に挑戦してほしい。また学位取得の副産物として、親孝行や子供への自慢話のネタが挙げられる。

3.3 博士取得体験談「海外留学」: 前田秀一氏(16:00~16:30)

一つの論文と出会い、どうしてもその研究を行いたくなり、気がついたら英国に留学していた。留学当初は研究の副産物くらいにしか考えていなかった博士号だが、英国に滞在しているうちに、MとD(Mr.とDr.)の違いを強く意識するようになった。欧州においては、博士号は一つの階級くらいの重みを持つ。これがよいか悪いかの議論もあると思う。しかし欧州の研究者の世界においては、博士があるかないかで任される研究のステージが大きく異なるのは事実である。

海外の大学で博士をとった体験談を述べたが、日本の大学でとった博士号を生かして欧州で活躍するという選択肢もある。自国では「足の裏の米粒」などと揶揄される日本の博士号だが、欧州では一般に高く評価されている。これを活かさない手はない。

4. 所感

一般参加者9名と、比較的少ない参加者数にもかかわらず、質疑応答は非常に活発であった。特に個人的な質問が多く、このような講演会を切望している人達がいることがわかった。今回の例会をきっかけに、博士号取得のチャンスを掴む人が現われるのを願っている。

5. アンケートのコメント抜粋

- ・熱意が伝わった。自身の今後の進路について再考する上でいろいろと参考になりました。
- ・やる気が最も重要であると改めて感じる事ができ良い機会となりました。いろいろとアドバイスいただき、ありがとうございました。
- ・今まで参加した技術士会の集まりで一番平均年齢が若いように感じました。大変良いことだと思います。
- ・長男が本年技術士一次試験合格により技術士会の準会員になりかけとなりました。今、大阪の大学2年生として生活して東京の例会には参加しづらいのですが、こられるときにはよろしく願います。
- ・私も博士課程に戻りたいと考ました。

以上

H19 年度月例会報告

5 月例会報告

日 時：2008 年 5 月 31 日（土）14：00～16：00

場 所：日本技術士会 荳手第二ビル 5 階 A・B 会議室

参加者：34 名

講 師：東海林忠博 氏

（JAL アカデミー株式会社 文化教育事業部コーディネーター、日本マナー・プロトコール協会
企画運営委員、白鷗大学講師）

内 容：第一回国際対応能力向上講座『技術者のための国際マナー』

セミナーの内容は、以下の通りです。

プロトコール（国際儀礼）とは
外国人とのビジネス交流
ビュッフェのマナー

「国際儀礼」という観点からだけでなく、普段の業務や生活の中でも知っておきたい内容でした。時間が足りなかったのが残念でしたが、とてもすばらしいセミナーでした。参加者の方からも「大変勉強になった」、「今後の参考にしたい」等のご意見をいただき、参加者の方も充実した時間が過ごせたと思います。



東海林講師

H19 年度月例会報告



セミナーの様子



国旗の優先順位



握手の練習

青年よ、海外に出よ！

(社)日本技術士会
国際特別委員会委員長
畑尾成道

原油価格や穀物価格の高騰そして様々な資源確保の動き活発になっている。資源小国であるわが国にとって輸出産業の維持・発展は極めて重要な課題である。一方で、日本は物の輸出は多いがサービスの輸出は極めて少ないと故高城さんはコメントされていた。技術サービスそのものの輸出があってしかるべきであり、技術士はそれに最も貢献できる位置にいるはずである。社会経済はグローバルイゼーションやボーダレス化の傾向にあり、自由貿易への圧力が高まるなかで、技術者のクロスボーダーのモビリティにも議論が高まっている。

若い世代の技術者が海外で仕事をするものの意義は極めて大きいと思う。若い世代が海外にでて様々な体験をし、その地域の人々と交流することは、帰国してからの仕事にも幅を広げることになる。ことわざに「かわいい子には旅をさせよ」があるが、それが人間形成において有効なプロセスのひとつとして今でも色あせることのないことばではなからうか。先日、横浜で TICAD（アフリカ開発会議）が開かれた際、ガーナで黄熱病と闘った野口英世にあらためて焦点があてられていた。明治の時代に単身でインドを経由してチベットを訪れた河口慧海もいる。パナマ運河の工事に参画した技術者、青山士。特別なミッションを抱いて海外に渡った人々の話は感動的である。

世界の平和とわが国の繁栄を目的とした政府開発援助（ODA）の削減が続いてきた。ODAが本来目指してきたものは発展途上国に対する技術移転であったが、その本来の使命が忘れられてきているように見える。技術はそれを駆使できる技術者によってのみ伝承されることは自明のことである。わが国の技術者、特に若い技術者が海外で働くことのできる機会を増やし、それを支援する制度がもっと求められてもいい。海外旅行を通じて得るものは多いが、旅行社がアレンジしたものは地域の人々と直接に交流する機会は極めて少ない。その地域で少しでも仕事をすれば、おのずとそこの文化や歴史またはその社会が直面している問題に関心を持たざるをえず、世界の多様性への理解も深まるはずである。

青年技術士交流実行委員会がアジア・太平洋地域の諸国と長きにわたり交流を続けていることは高く評価される。多くの青年技術者が海外に関心を抱き、やがては海外の仕事で活躍することを心から願いたい。海外で働くというワクワク感や高揚感は若いときに抱いた方がいい。一方で、日本を訪問または滞在している外国人へのホスピタリティについても国際交流の面から真摯にとらえる必要がある。私事ではあるが、海外で仕事をしたいという若い頃の思いは、小田実の「何でも見てやろう」に強い影響を受けている。

日韓技術士会議における青年技術士交流実行委員会の役割

日韓技術士会議実行委員会委員長

中山 輝也

日韓技術士会議実行委員会も、調査委員会である日韓構造調査研究委員会から実行委員会の一つとして衣替えしております。もともとこの委員会は、大先輩 本田尚士さんなどによる発想でもあり、日韓の技術・経済摩擦を起こさないための工夫でもありました。したがって、今でも産業構造調査研究委員会の方が日韓技術士会議を開催したとしてもふさわしいと思っておりますが、調査委員会は長期継続性の問題もあり、横並びの実行委員会となったのは仕方がないようです。それでも今年2008年の新潟での開催が第38回になり、全国大会より長い歴史を持っているのです。

韓国の技術士と信頼関係を築きながら行って参りましたが、先輩達は大変だったと思います。この会議には理解して下さる青年技術士も多数参加しておりましたが、委員会として青年技術士交流委員会が私共と直接関わるようになったのは、第35回の韓国全州市で行われた会議の準備段階からです。ですから、その約1年前の2004年の秋頃から、日韓の青年委員会メンバーを加えた韓国側との協議が行われました。

韓国の強い要望で本会議前日の2005年10月23日、ワールドカップの会場でもありました全州市のスタジアムを借り切って、日韓青年技術士親善サッカー大会が行われました。しかし、組織的な練習を積んでさらに秩序正しい韓国チームに大敗を喫しました。当時の日韓両政権下で極めて厳しい状況下でしたが、この交流により、旧知の両国技術士、同伴者同士、新しく参加した人を加え、有意義な友好親善・相互理解を強めることが出来ました。またこれが潤滑油となり、会議全体を通じた共通体験は次の世代に継がれ、民間での近隣外交の一端を担う存在として未永く継続されていくように思いました。

次年度の2006年は会場を沖縄県那覇市に移して行われました。これは韓国側が那覇市での開催を希望していましたので、沖縄県技術士会にお願いしました。一度決めたらトコトンやるといふ沖縄県人の性格から、開催を決定してからの沖縄県技術士会の活躍は素晴らしいものでした。東アジアの国際観光立国を目指す沖縄県の人達の心遣いは温かく、参加者の顔はほころび、会議を成功に導きました。

那覇市内の黄金森公園陸上競技場で行われた日韓青年技術士親善サッカー大会は、去年はそれこそ大敗でしたが、ここでの正式ゲームは1対1の引き分けでした。

2007年はソウル特別市で行われ、残念ながらサッカーは敗北しました。これまでに3回行われましたが、青年技術士達は、その準備に少々口うるさい日韓技術士会議実行委員の老頭たちに文句を言われながらも、黙々と動き、実績を積重ねていったのです。

今年2008年は政令都市になって2年目の新潟市での開催です。新潟での開催は平成2年に続き16年ぶりですが、すでに公認新潟市営陸上競技場も確保され、韓国側との詳細の協議も始まっております。年輪をかさねつつある青年技術士同士の深い付き合いがやがてこの会議の中核を担うものと思います。

さて、サッカー試合のことだけを書いてしまったようですが、青年技術士と日韓委員会との関わりは決してそんなものではありません。サッカー試合実施とともに、青年技術士による分科会も設定されました。それは第35回の全州市からですが、第5分科会の他に設けたおまけの第6分科会では、自由課題による討論が行われました。第36回的那覇市では、これが分科会の一つに正式に組入れられ、第5分科会として発足したのです。英語で行われましたが、英語圏でない両国の青年技術士にはやはり難しいことも多いようです。3回目になる2007年のソウルでは英語でしたが、かなりの母国語も混じったようです。

さて、第38回は日韓それぞれの技術士会における青年層の問題をテーマとするようで、「技術」と異なり、状況表現を英語で行うのは結構難しいと思いますが、母国語を制限していないのでそれほど問題はないと思います。


韓国側において日本語の堪能者の年代が去り、もはや共通語は英語の時代です。現在のところ、韓国側の方が会議などで英語が積極的に活用されています。李明博政権での大統領選の公約、つまり実践約束プロジェクトで、英語教育問題がとりあげられているくらい熱心なのです。

この日韓技術士会議は日韓国交正常化40周年、戦後60周年を経て、日韓友情交流年などの節目も過ぎ、この会議のために尽された両国関係者の熱意に支えられながら、確かな足跡が残されています。

一方、日本と韓国は共通する事項が多くあります。狭い国土で天然資源には恵まれていないこと。しかしながら国民一般は人間として良き徳目（勤勉、正直、忠誠心）を持ち、これを底力としているのです。日韓両国は60年程前、なにもかもが無となった中から、科学技術を基盤に製造業を中心の加工貿易立国として再出発し、有史以来の繁栄した今日の社会を樹立して、アジアをはじめ世界の優等生の存在となっていることを自信に、両国の技術士が協力して解決していく課題として、「異常気象」、「黄砂」などを含む「北東アジアにおける環境問題」に取り組むことでしょう。

そのためにも、青年技術士が将来を担う立場からも、技術士として自覚して行動すべきと考えます。そこには企業内技術士がほとんどの現状から見て、雇用している企業経営者の理解を得られることが必要条件であることは述べるまでもありません。この点について私達皆が留意し、啓発してゆくことが大切だと思います。

【 国 際 交 流 活 動 報 告 】

サブグループ名	豪州交流グループ
グループメンバー (印：グループリーダー)	掛川 昌俊、松本 正人、前田 秀一、新井 靖典、石関 学
グループの目的・活動の趣旨	<p>(1)日豪若手プロフェッショナルエンジニアのネットワークの構築将来を担う日豪の若手フェッショナルエンジニアが、持続的かつ双方にとって生産的な協力関係を築いていく。</p> <p>(2)新たな日豪ビジネスの開拓 日豪若手プロフェッショナルエンジニアのネットワークの活用を通じて、新たな日豪ビジネスを開拓していく。</p>
今期の活動内容	<p>1 . オーストラリア技術士会 (Engineers Australia)からの招待で、前田委員、掛川委員がそれぞれキャンベラとメルボルンを訪問した。オーストラリア技術士会、オーストラリアプロフェッショナル協会、ロイヤルメルボルン工科大学を訪れ、日本技術士会及び青年委員会の紹介を行い、今、日豪交際交流を行っていく方法・方向性について議論した。</p>  <p>2 . また、オーストラリア若手技術者の招待計画を進めている。</p>
活動成果	<p>1 . 日本技術士会をオーストラリア技術者に紹介して議論するなかで、技術者のキャリアプログラム、及び倫理については、今後日豪の間で議論していく必要性を認識した。</p> <p>2 . また、オーストラリアの青年技術士の代表との間で、今後の若手技術士の二国間交流について議論した。その結果、交互に一名に限り若手技術者を招待し合うことを、お互いに検討することで同意した。</p>
今後の活動・展開	<p>2008 年 6 月、オーストラリアから 1 名の若手技術者を日本へ招待する。</p> <p>(1) 日本技術士会青年委員会活動 (拡大政策委員会、本支部交流研修会) の紹介</p> <p>(2) EA 青年委員会の活動報告をして頂く、また、「グローバル社会における日豪技術士の役割」について日豪の若手技術士が提案を行い「グローバル社会における国際交流のありかた」について議論する。</p> <p>(3) オーストラリア技術者に、日本の技術・文化についてツアーを行なって紹介する。</p> <p>“ 継続は力なり ” です。長期的視野にたつて活動を継続していく。</p>

オーストラリア技術者との交流

Interaction with Australian Engineers

掛川 昌俊, 前田 秀一

Kakegawa Masatoshi, Maeda Shuichi

オーストラリア技術士会からの招待で、日本技術士会の青年委員二名がそれぞれキャンベラとメルボルンを訪問した。オーストラリア技術士会、オーストラリアプロフェッショナル協会、ロイヤルメルボルン工科大学を訪れ、日本技術士会及び青年委員会の紹介を行い、今後、日豪交際交流を行っていく方法・方向性について議論した。そこで議論した内容と得られた成果について報告する。

Engineers Australia invited two of Young Engineers Committee (YEC) of the IPEJ to Canberra and Melbourne, respectively. They visited the Engineers Australia, the Professionals and RMIT University. After introducing what YEC is, they discussed the interaction between both young engineers committee with the young engineers of the Engineers Australia.

キーワード：オーストラリア，青年委員会，国際交流，キャリアプログラム，倫理

1. はじめに

オーストラリア政府機関の DAFT (Department of Foreign Affairs and Trade) が Young Professionalsのネットワークを広げる政策の一環として、2006 年 11 月に一行を日本に派遣してきた。その中でエンジニアの Brandon Lee 氏が技術士会に交流を申し入れてきたのが日豪交流の始まりとなる。日豪若手プロフェッショナルエンジニアのネットワークの構築、及び日豪ビジネスにおいて利益を増進することを目的に青年委員会として活動を開始した。

日豪ビジネスを開拓していくにあたり「今年（2007 年）はオーストラリアに行こう。そのために、日豪ビジネス企画書を練りあげてオーストラリア関係者に提案していこう。」という目標に向かい青年委員会内でワーキンググループを結成してメンバーが集まり議論を重ねていった。

企画の内容についてブレインストーミングをおこない練っている段階で、Brandon Lee 氏から日本技術士会青年委員会にオーストラリアへの視察・研修への参加依頼が入る。当初のミッションは、「技術者の流動性に関する議論」、及び「FTA

研究が示唆する可能性の模索」という事であったが、FTA について議論することは技術士会の青年技術士のミッションとして適切でないという判断の基に議論・交渉をしていく中で、まず日本の青年技術士が果たしてくるミッションとして、「日本技術士会、及び青年委員会のオーストラリア技術士会への紹介・PR」と「日豪国際交流を行なっていく方向性・テーマの模索」ということで話がまとまり、2007 年 6 月下旬にオーストラリアへ訪問することが決定した。

スケジュールについては、前田が 6/24～26 にキャンベラでオーストラリア技術士会本部・青年委員会本部訪問、及び Professions Australia 会議・レセプションへの参加、掛川が 6/27～29 にメルボルンでオーストラリア技術士会ビクトリア支部・青年委員会ビクトリア支部、及び RMIT 大学訪問を行い、オーストラリア技術者との交流を行なって来た。

2. オーストラリア技術士との交流

オーストラリア技術士会のキャンベラ本部で Rupert Grayston 氏 (Deputy Chef Executive),

Michael JM Bevan 氏 (Associate Director Registration)らと前田が面会した。そして、次に、ビクトリア支部で Glenda Graham 氏 (Industry and Accreditation Manager)、Alison Coe 氏 (Executive Director)らと掛川が面会する中で、以下について議論した。

表 1 . 日豪技術士の比較

国名	日本	豪州
資格の名称	技術士	CPEng(注 1)
法的根拠	技術士法	Royal Charter
認定機関 (指定機関)	文部科学省 (日本技術士会)	IEAust(注 2) (NPER)(注 3)
試験	筆記・面接	レポート・面接
実務経験	4~7年	3年以上(推奨)

(注 1) Chartered Professional Engineer

(注 2) The Institution of Engineers Australia

(注 3) National Professional Engineers Register

2.1 試験制度の違い

オーストラリアでは、Brandon Lee 氏によると一般に以下に示す過程を経て技術士が誕生する。

IEAust が認定する大学を卒業する。

年間 150 時間の CPD(Continued Professional Development)を、3 年間に亘り継続する。

Career Episode Report(CER)の提出

技術士になるにふさわしい能力を有していることを、レポートを提出して証明する。

Professional Interview(PI)を受ける。

面接試験官に対し、専門的経験についてプレゼンテーションを 20 分を行い、質疑応答を受ける。

インタビューの結果で、基準を満たしていると判断されれば技術士となる資格が与えられ、登録をもって技術士となる。

日本のように 21 部門別選択科目別の試験問題による試験は行われていない。

こちらかも日本の技術士の試験制度について説明した。日豪の試験を単純比較することはできないが、日本の技術士試験が相当に難関であることは伝わったようである。

2.2 技術者のキャリアプログラム

オーストラリア技術士会では、特に若手対象に、キャリア形成を手助けするためのプログラムが

実施されている。プログラムの内容は、日本における修習技術者支援と同様のものが多い。本報では、オーストラリア独自のキャリアプログラムを紹介する。

それは、個人資産の運用に関するプログラムである。オーストラリア経済は、中国向けの鉄鋼石などが好調で、現在バブルの状態にあると言われる。このような状況下で、特に若手のエンジニアが欠乏している。その結果、優秀な技術者であれば 20 代後半で年収 2 千万円というのもめずらしくない。ただその年収をいつまでも維持できるとは限らない。実際に資産運用に素人の若手技術者が経済的なダメージを受けた事例もあったことから、このような資産運用を指導するプログラムを開始したとのことである。



写真 1 . オーストラリア技術士会の役員と

2.3 オーストラリア青年技術士との交流

オーストラリア技術士会にも、日本の青年技術士交流実行委員会に相当する若手技術士の委員会が存在する。オーストラリア青年委員の年齢の上限はこれまで 30 才と非常に若かった。日本青年委員の 45 才という上限に多少影響を受け



写真 2 . ビクトリア支部青年技術士とディナー

て、最近では 35 才まで年齢を引き上げたという。

キャンベラ本部では 20 名、その他、ビクトリア支部、西オーストラリア支部など 7 支部ではそれぞれ 5~10 名程度の若手技術士が活動している。本部と支部を合わせ年間 880 万円という予算を認められている。しかし、国土が広く、各本部支部間の交通費でその多くを消化してしまうとのことであった。

3 .プロフェッショナルオーストラリアとの交流

オーストラリアには、Professionals Australia という組織が存在する。これは、専門性の高い職業への従事者の集団で、例えば医師会、弁護士会、技術士会などの専門家が一つに集まった組織と考えてよい。このプロフェッショナルオーストラリアの会合に、オーストラリアの青年技術士とともに参加し、他の専門家グループと議論した。今回は、以下のグループとのディスカッションについて記す。

3.1 IT 技術者グループとのディスカッション

オーストラリアは、日本に比べ著作権保護の認識が低く、コンピュータソフトに関わる IT 技術者としては、今後の課題と考えている。

日本では、コンピュータソフトは著作権だけでなく特許権でも保護される。日本でのビジネスを考える場合、技術と知的財産の両方に精通した技術士の存在は頼りになるはずとアピールした。

3.2 建築家グループとのディスカッション

どのような技術者と一緒に仕事をしたいのか、といった観点からディスカッションを行なった。パートナーとして望ましい順は、

技術力、語学力ともに備えた者

技術力を備えた、語学力に乏しい者

技術力、語学力ともに乏しい者

語学力を備えた、技術力に乏しい者

という結論に至った。は当然の結果であり、今後重要なのは の技術者のポテンシャルを生かすことだという意見が多かった。また、 の評価が より低いのは、口ではうまい事を言いながら、

中味がないのはかえって有害になるからである。

3.3 歯科医グループとのディスカッション

歯科医の世界では、日本とオーストラリアの間で資格の相互認証はない。日本の歯科医がオーストラリアで開業するには、オーストラリア人と同じ試験を、受験しなければならない。

歯科医グループの中に、日本の技術士が APEC エンジニアになる際に、なぜ英語の試験が課されないのか、という疑問の声があった。即座に明快な回答をできなかったが、先の建築家グループとのディスカッションを引用して、語学力以前に技術力が重要であると答えた。また、APEC エンジニアの多くは既に国際的な場で経験を積んでおり、さらに自己研鑽の中で語学力を研んでいることも話しておくべきだった。

4 .ロイヤルメルボルン工科大学訪問

スケジュールを策定する際に Brandon Lee 氏が掛川の専門分野（衛生工学：Environmental Engineering）と同種の研究を行っている大学の研究室訪問を組み込んでくれた。ビクトリア州公立大学であるロイヤルメルボルン工科大学（RMIT University：1887 年創立、学生数約 57,000 人の大規模大学）の土木、環境及び化学工学科（School of Civil, Environmental and Chemical Engineering）を訪問した。



写真 3 . John V. Smith 氏と研究室内で面会

4.1 The Fusion of Civil, Environmental and Chemical Engineering

大学では、Professor John Buckeridge , Associate Professor John V. Smith の 2 人の

大学の先生と研究室で面会し、大学内の研究施設を見せて頂いた。まず印象的だったのは、日本の大学ではそれぞれ別の学部である土木工学、環境工学、化学工学の三つの工学を有機的に関連づけて研究を行っているという点であった。

4.2 Sustainable Practice

まず、John V. Smith 氏と研究室内で、Natural environment, Sustainability, Global Warming 等について議論した。地球温暖化による影響について、日本では集中豪雨による被害が指摘されているが、オーストラリアでは干ばつに見舞われ農作物の収穫に影響が出るとのことであった。また、JABEE に大変興味をもたれており、大学の教育システムの評価についても議論した。話が倫理に関することに及ぶと John Buckeridge 教授の研究室に案内してくれ、皆で倫理について議論した。

4.3 倫理は国際共通言語

John Buckeridge 教授は社会の真に重要な問題に対して焦点をあて、倫理的側面から考察・評価するといった研究をされており、倫理の重要性を強く主張された。倫理に関するリサーチペーパーを頂いた。また帰国後に John Buckeridge 教授から「...I am sure we will find opportunities for collaboration...」といったメールが届いている。リサーチペーパーを参考文献に示す。グローバルな活動していくうえで、倫理は議論していかなければならない重要なテーマであると考え、目を通して頂き意見・感想等を頂きたい。

5 . おわりに

日本技術士会をオーストラリア技術者に紹介して議論するなかで、技術者のキャリアプログラム、及び倫理については、今後日豪の間で議論していく必要性を認識した。

また、オーストラリアの青年技術士の代表との間で、今後の若手技術士の二国間交流について議論した。その結果、交互に一名に限り若手技術者を招待し合うことを、お互いに検討することで同意した。

ここで重要なのは、招待/派遣は一名に限ると

いうことである。これは若手のトレーニングを最大の目的とするからである。つまり、一人で相手国に乗り込み言語・文化他の違いを乗り越えて、一人でミッションを完遂できれば、若手技術者にとって、大きなブレイクスルーになる。

日本技術士会の知名度を上げる方法の一つは、技術士会の中からスターを生み出すことだと考える。また、グローバル化の進む中でのスターの条件の一つは、世界に通用するキャリアだと考える。若手技術士にとって、オーストラリア技術者との交流は、世界に通用するキャリア形成に繋がると信じる。

なお、本稿は連名での掲載であるが、筆者らは別の期間にオーストラリアの別の場所に、それぞれ単独で乗り込んだことを付記しておく。

<参考文献>

- 1) John Buckeridge, Gauging Priorities for the Ethical Use of Water, ISSUES Volume 79/July 2007
- 2) John S Buckeridge, The case for mandatory inclusion of ethics within zoological sciences curriculum, Integrative Zoology 2006;1:44-47
- 3) John Buckeridge et al, Ethics, engineering and environment : Is Hawking correct ... is it all too late? Proceeding of the 17 Annual Conference of the Australasium Association for Engineering Education. 2006.15:1-8

掛川昌俊 (かけがわまさとし)
技術士 (衛生工学/総合技術監理部門)
青年技術士交流実行委員会 副委員長



新宿NSビル(株) 管理部 技師長
e-mail : masa-kakegawa@yahoo.co.jp

前田秀一 (まえだしゅういち)
技術士 (化学/総合技術監理部門)
理学博士



王子製紙(株)新技術研究所 上級研究員
e-mail : shuichi-maeda@ojipaper.co.jp

サブグループ名	国際Wグル - プ(日韓技術士会議)
グループメンバー (印:グループリーダー)	平野輝美,
グループの目的・活動の趣旨	本サブグループは、若手技術士としての交際交流と研鑽を実現するために活動する。特に今年で37回目を数える長い歴史を有する日韓技術士会議について、両国の技術士会およびそれぞれの技術士諸氏においてお互いを知り懇親を深める場として有効且つ貴重な機会であると認識し、お互いの青年技術士層の交流を活性化するために活動を行う。
今期の活動内容	<p>今年の日韓技術士会議はソウルにて開催された。昨年沖縄会議以降、今回の開催準備のために毎月の日韓会議実行委員会に出席し、青年技術士交流実行委員会としての意見を述べ、議論に参加した(月例会出席)。また、ソウルにて開催された合同会議に出席し、且つ今年開催地であるソウルにおける両国の合同下見に参加した。以下のタスクを実行した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日韓技術士会議における第5分科会の開催と運営 2. 会議開催にあわせて両国青年委員会同士のサッカー大会を開催し、計画と実施を行った <p>写真に第5分科会参加の皆様の写真を示す。また、親善サッカー大会の様子を示す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>ソウル会議以降、次年度の新潟会議に関する準備を進め、特にフットサルチームを結成した。また、新潟開催地下見のために来日した韓国技術士会青年委員会委員長朴氏の案内と両国メンバの面談を実施し、交流を深めた。</p> <p>第37回日韓技術士会議(ソウル大会)についての詳しい内容は別途提出した報告書を参照ください。</p>
活動成果	第37回日韓技術士会議について、その準備段階から実施において皆様のご支援により滞り無く実施できたことは大きな成果と思う。本会議を開催するための準備等において、全国の支部や支部の青年委員会各位や様々な方々との連携をとりながら行ってきたが、その過程において各メンバとのコミュニケーションを得、貴重な経験と人脈を形成することができ、大きな成果と考えている。
今後の予定・展開	<p>第38回日韓技術士会議は、新潟開催を予定しており日本技術士会の主催となる。本年までに構築してきた人脈や相互の連携を深めつつ、日韓技術士会議実行委員会と連携を踏まえて積極的に関わっていくことが求められよう。特にフットサルチームをコアとして、懇親と交流を活発化していきたい。</p> <p>今年度まで、日韓技術士会議実行委員会と青年交流実行委員会を兼務していた平野委員が退任する予定であり、より密に連携を図っていくこと、および継続性を考えて青年委員会内部の日韓担当委員を複数体制にすることが求められよう。今後の重要な課題であると考え。</p>
その他	特になし。

2007年10月10日

第37回韓日技術士会議参加報告

日韓技術士会議実行委員会／青年技術士交流実行委員会委員

平野輝美

1. 日程

第37回日韓技術士会議が以下の日程により開催された。

9月30日 第3回親善サッカー大会

10月1日 第37回日韓技術士会議 全体会議／分科会

10月2日 産業視察(韓国ガス公社, 仁川大橋建設現場見学, 清溪川文化館見学)

2. 親善サッカー大会

添付資料2にサッカー大会のスケジュール等資料を示す。日韓両国による親善大会は3時より開催された。開会式の様子と参加者の写真を示す。



ゲームはホームチームである韓国の強さが際立ったものであった。親善目的であり、韓国側の大きな配慮によってゲームとして成立させて頂いた。参加者一同、来年こそはホームゲームの新潟で再会と勝利を祈念した。



写真にゲームの様子を示す。また、ゲームの後の懇親会の様子と、二次会の様子を簡単に示す。二次会では、「ぼくだん」(ウイスキーのピール割り)を頂き、その強烈な威力にびっくりした。



今年の親善サッカー大会に関し、日韓技術士交流実行委員会中原委員より1万円の寄付を頂いた。ありがとうございました。

3. 日韓技術士会議

10月1日の午前中に開催された全体会議、および午後開催された分科会のプログラムを添付資料3に示す。各講演については参加者の報告および講演者の報告を参照ください。

3.1 全体会議

写真に高橋会長の挨拶の様子を示す。韓国技術士会、日本技術士会のそれぞれの会長挨拶の後、基調講演が行われた。今年のテーマは、「東アジアの人類の幸せのために、環境保全と日韓技術士の役割」であり、両国の講演があった。



3.2 分科会

韓国技術士会青年委員会委員長朴委員長，および日本技術士会青年技術士交流実行委員会委員長時合委員長の挨拶の様子を示す。



各講演について，韓国と日本と交互に行った。第5分科会の参加者一同の写真を示す。多くの方の参加を得て活発な討議を頂いた。両国の講演者，および議論を頂いた参加者の方々に御礼申し上げます。



4. 晩餐会

韓国技術士会によるご招待により，晩餐会が開催された。日本側の参加者一同，リボンをつけて頂き会場に入った。着席で来賓のご挨拶を頂いた後，晩餐会となった。ご参加いただいた皆様の写真を示す。

また，来年の開催地である新潟の紹介があった。新潟の紹介の様子を写真に示す。国際会議において晩餐会はとても重要である。多くの方々と名刺を交換し，直接の懇談と記憶を共有することが重要である。



サブグループ名	香港交流グループ
グループメンバー (印：グループリーダー)	<p>松本 正人、新井 靖典、田村 裕美、石関 学、長内 沙織、倉井 真里 (香港プロジェクト(～2007年11月): 倉井 真里、今野 明、小松 秀次、掛川 昌俊、新井 靖典、前田 秀一、松本 正人、田村 裕美、時合 健生)</p>
グループの目的・活動の趣旨	<p>きっかけは、CAFEO /YEAFFEO への継続派遣の成果であり、香港土木技術者協会(Institution of Civil Engineers, Hong Kong Association)からの提案を受けて活動を開始した。今後は、香港 ICE とも関係が深く、日本技術士会カウンターパートでもある香港工程師学会(HKIE)との定期的な情報・人材交流を行うよう働きかける。</p> <p>(1) 日本と香港の若手技術者のネットワークの構築 (2) 日本技術士会および青年委員会の知名度向上 (3) 日本と香港のビジネスにおける利益の増進</p>
今期の活動内容	<p>1 . 香港ICE主催の日本視察に伴う各国の若手技術者来訪の機会を活用し、香港を始めとする各国との国際交流を進展させるとともに、交流活動を通じて国内の若手技術者へ研鑽機会を提供した。</p>  <p>2 . また、2008年の夏に日本技術士会青年技術士交流実行委員会から香港工程師学会および香港ICEを訪問し、国際交流を行うことを約束し、計画中である。</p>
活動成果	<p>1 . 香港 ICE が新たな交流チャンネルとなり、香港工程師学会とのパイプ構築に発展した。</p> <p>2 . 修習技術者支援実行委員会の協力によって、初めて JABEE 認定校の学生を交流例会に招待し、参加していただいた。</p> <p>3 . 香港 ICE の来日と YEAFFEO-14 での HKIE 代表団との交流により、香港側の訪問受入れ態勢が急速に具体化した。</p>
今後の活動・展開	<p>日本から 3-4 名の若手技術者を香港に派遣する。</p> <p>【ミーティング内容(案)】 ・プレゼンテーション：双方の青年委員会の活動報告など ・ディスカッション：'The role of young engineers in Hong Kong and Japan in the age of globalization.'というテーマでディスカッション</p>

香港 ICE との交流

◆ 実施日 : 2007 年 10 月 31 日 (水)

◆ 訪問 : 香港土木技術者協会 (ICE : Institution of Civil Engineers Hong Kong Association) に所属する香港、英国、オーストラリア等の若手土木技術者 8 名 + 団長 1 名 (Chairman of ICE HKA Main Committee)

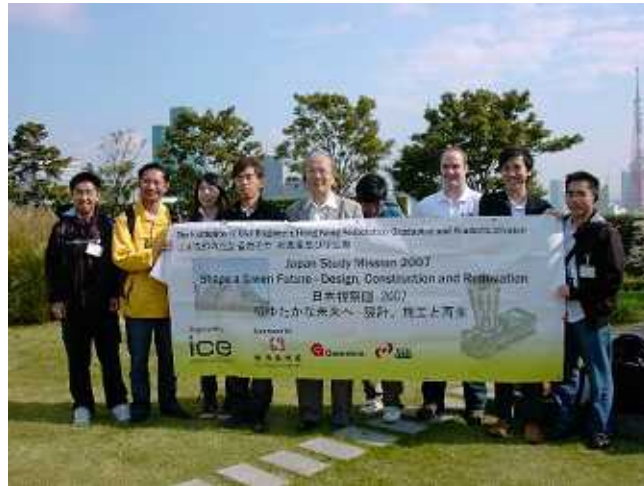
◆ 実施内容 :

1. 技術視察 (10:00-11:30, 13:00-13:30)

屋上緑化・壁面緑化の都心部の代表的な事例を見学した。

・内容 : (財)都市緑化技術開発機構 特殊緑化共同研究会会員によるガイド
(有)緑花技研 代表取締役 藤田 茂 氏)

・場所 : 六本木ヒルズ(ヒルズ主催の屋上庭園・制震システム見学ツアーに参加)
グレースビルディング(六本木)
コマツビル



六本木ヒルズにて

2. 国交省屋上庭園見学 (14:00-14:45)

最新の屋上緑化技術を駆使し、既存の建築物の屋上を人と環境にやさしい緑の空間として整備された国交省屋上庭園を見学した。

・内容 : (財)都市緑化技術開発機構 特殊緑化共同研究会会員によるガイド
(有)緑花技研 代表取締役 藤田 茂 氏)

・場所 : 国土交通省(中央合同庁舎 3 号館)屋上庭園

3. 技術セミナー(15:30-18:00)

国交省屋上庭園の説明のほか、様々な屋上緑化事例についての解説を受け、参加者相互で意見交を行った。

・内容：緑化建築の専門家による講義と参加者との対話など

・講師： 国土交通省 都市・地域整備局 公園緑地課 緑地環境推進室長 舟引 敏明 氏
(有)緑花技研 代表取締役 藤田 茂 氏

・場所：葺手ビル A・B 会議室

4. 交流イベント(18:00-19:30)

視察団と若手技術者の交流の場を提供した。青年委員会の10月例会として実施し、合わせてJABEE課程の学生にも参加を募り、学生同士の交流の場としても活用していただいた。

・内容：視察団と日本の若手技術者の国際交流を月例会として実施

・形式：カクテルパーティー(軽食+ドリンク)

当日、「チャレンジ・フード」と題して日本の梅干、納豆、もずく、イカの塩辛などに挑戦してもらった。香港の人は「おいしい」と言って次々と平らげた。

交流会は大盛況となり、最後は時合委員長のスピーチ+一本締めで交流会を締めた。ところが、せっかく一本締めで締まったと思ったのに、会場の空気が解散モードにならず、みんなが司会者の次の言葉を待っているようだった。仕方なく、最後に司会から「Thank you very much for joining the tour of Young Engineers Committee of IPEJ today. And I hopeallofyoucanenjoytherestofyourstayinJapan(早口でつなげて発音). Thank you very much!!!!」と言い添えて交流会を締めた。

香港若手技術者との交流は、大変有意義であった。当日来ていただいたスタッフおよび準備を手伝っていただいたスタッフの皆さんには、感謝します。

(文責：国際 WG 松本正人)



交流会 集合写真



チャレンジ・フード

サブグループ名	CAFEO/YEAFEO グループ
グループメンバー (印 : グループリーダー)	松本、倉井、長内、喜多
グループの目的・活動の趣旨	アセアン諸国等、CAFEO 参加国との情報交流・人脈形成を通じた若手技術者の研鑽
今期の活動内容	<p>第 25 回 CAFEO (Conference of ASEAN Federation of Engineering Organization) および第 14 回 YEAFEO (Young Engineers of ASEAN Federation of Engineering Organization) への若手技術者の派遣 (2007 年 11 月 26 日 ~ 30 日、フィリピン・セブ島)</p> 
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本技術士会青年委員会の活動内容を広く ASEAN 諸国にアピールし、今後も国際活動にも積極的に取り組んでいくという姿勢を示すことができた。 2. 香港工務局との関係を強固にし、2008 年夏の日本技術士会青年委員会の訪問を受け入れていただけるよう、香港の青年委員長と約束を取り付けた。 3. オーストラリアの次期青年委員長 (Ms. Anny Joseph) とのパイプを構築し、日豪の青年委員会の関係を強化した。 4. フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポールなどの若手層とのコンタクト・ポイントを構築し、今後の韓国・豪州・香港に続く 2 国間交流を開始する準備が整った。 5. ASEAN 諸国の青年委員会の活動内容から、「Young Engineers Committee」の活性化について日本でも参考にできそうなことをいくつか学んだ。
今後の活動・展開	<p>CAFEO/YEAFEO への参加を通じて構築したヒューマンネットワークを利用し、今後の新たな 2 国間交流相手国を検討していく。</p> <p>相手国の選定に際しては、日本技術士会会員と相手国技術者協会との間で相互にメリットが享受できる国を候補としていく。</p> <p>(現在、韓国・豪州・香港との 2 国間交流を実施)</p>

CAFEO-25/YEAFEO-14 参加報告

◆ 会議名：

第 25 回 Conference of ASEAN Federation of Engineering Organization (CAFEO)、
第 14 回 Young Engineers of ASEAN Federation of Engineering Organization
(YEAFEO)

◆ 派遣期間：2007 年 11 月 26 日(月)~30 日(金)

11 月 26 日(月)

09:30 成田発 (PR431 便) 13:35 マニラ着
15:00 マニラ発 (PR849 便) 16:30 セブ着

2007 年 11 月 27 日(火)

Registration、YEAFEO Board、Welcoming Dinner

2007 年 11 月 28 日(水)

CAFEO Opening Ceremonies、Country Reports、CAFEO parallel Session

2007 年 11 月 29 日(木)

Technical Tours、Closing Ceremony、Farewell Dinner

11 月 30 日(金)

08:00 セブ発 (PR434 便) 13:25 成田着

◆ 内容

AFEO とは、ASEAN 事務局と提携する非政府組織であり、AFEO 参加団体は ASEAN 加盟国により設立される技術系組織で構成される。会議は、親交を深め理解・協力し、また意見と経験の交換を行うために、毎年 AFEO 加盟国が交代で主催して開催されている。

参加国は ASEAN 加盟国だけでなく、ゲスト国(オーストラリア、カナダ、中国、日本、インド、韓国等)も含まれているため、実質的にはアジア太平洋地域に主要国のほとんどが参加している技術者協会の会議であると言える。

2007.11.27 (Tue)

午前中の YEAFEO のミーティングでは、YEAFEO のウェブサイトの運営、加盟国の若手技術者のメーリング・リスト作成、そのメーリング・リストへの登録を有料にするかどうか、などの話が続いた後で、マレーシアが YEAFEO の学生の部(ES-AFEO = Engineering Student AFEO)を設立しようという提案をした。来年の YEAFEO(2008 年 11 月 26-29 日、タイのバンコクで行われる)のときに学生の代表者を何人か連れてくるということで議論がひと段落した。

昼食に続いて、各国エンジニアリング協会の青年委員会の活動状況などを報告する「カントリー・レポート」のプレゼンテーションが行われた。各国 7 分間の持ち時間で、カンボジア、インドネシア、

マレーシア、ミャンマー、シンガポール、タイ、オーストラリア、日本、香港、フィリピンの順にプレゼンテーションが行われた。

マレーシアの発表は特に印象的で、プレゼンの最初に活動内容をきれいに取りまとめたスライドショーが上映され、その後にパワーポイントで補足説明するという組み立てだった。マレーシアは今回の YEAFEO に 13 人もの代表団を送り込んできており、他の国とは明らかに意気込みが違っていた。青年委員会の活動内容も、セミナー、チャリティ活動、フットサル交流、ボーリング大会、大学生を対象としたキャリア形成に関する講義など、実に多彩なサービスを提供している。また、青年委員会のメンバー全員が活動に参加することを心から楽しんでおり、委員長を中心としたまとまりのよさと家族的な雰囲気が特に印象的であった。また、国際交流も盛んに行おうとしており、来年は香港を訪問することが決まっているそうである。

また、タイでは青年層への教育プログラムの一環として、若手技術者向けに「English for Engineers」、「English Speech Contest」などのセミナーを提供している。グローバル化が急速に進む今日、技術者にも英語が必須であると考えて教育に力を入れているのだろう。

香港は、青年委員会で中国本土、マカオへの訪問をすでに実施しており、来年度はオーストラリアへの訪問とマレーシアの訪問受入れを予定しているとのことであった。

日本のプレゼンは、用意したパワーポイントをもとに、自己紹介、日本技術士会青年技術士交流実行委員会の活動概要、今後の国際交流への抱負という順番で進めた。

交流の中で、香港 Engineering Association の人と話し、来年の日本からの視察団の受入をお願いしてみた。この 10 月に、香港 ICE (Institution of Civil Engineers) の視察団の訪問を受入れたことを機に、日本技術士会としては香港との関係を強化しようと考えていた。香港の代表団は私の申し出を心よく受入れてくださり、香港に来る日程が決まったらいつでもメールを送ってくださいという暖かい言葉をいただくことができた。

また、オーストラリアの代表者(次期青年委員長の女性)とのコネクションを強固にすることに成功し、さらに新しい 2 国間関係の相手として開催国のフィリピンと交渉して交流を開始するための楔を打った。

最後にプレゼント交換セレモニーが行われることとなった。各国の代表者同士が、持ち寄ったプレゼントを交換していき、硬く握手を交わして親睦を深めた。

PM7:00 から大会全体の Welcome Dinner に出席した。ディナー終了後、「KTV」というカラオケボックスに行った。それぞれの国が交代で歌うというルールで進んだ。カラオケも楽しく過ごすことができ、喉は枯れクタクタになって AM1:00 にホテルの部屋に戻った。

2007.11.28 (Wed)

この日はディナー・パーティ以外の YEAFEO 公式行事がなかったため、CAFEO (Conference of ASEAN Federation of Engineering Organization) のオープニング・セレモニーに参加した。

壇上には、ASEAN 諸国の技術者協会の会長が勢ぞろいし、この会議が ASEAN 諸国にとって非常に重要な会議であると感じ取ることができた。その後、アルファベット順にブルネイから「ントリー・レポート」が行われた。

今回の CAFEO (Conference of ASEAN Federation of Engineering Organizations) は、発表セッションがメイン会場 1 箇所のみとなっており、発表者はわずかに 5 名しかいない。その他の発表者は、ポスターセッションでの発表となった。

PM7:00 に若手メンバーだけでディナー・パーティに出かけることになった。ディナーの席では、最初はタイ人のグループと同じテーブルを囲んでいたが、途中からフィリピンの人になった。その後も、カンボジアやマレーシア、フィリピン、タイ、ミャンマーの皆さんと次々に話をして親睦を深め、ディナー・パーティは終了となった。

ディナーの後、2 次会の会場にみんなでなだれ込むことになった。2 次会は、ディスコであった。ディスコでは、プロのバンドと歌手がステージでリードし、それに合わせてみんなでフロアに出て踊りまくった。こういう機会に備えて、ダンスの基本ステップを習得しておけばよかったと後悔した。

0 時をまわり、今日もくたくたになったのでホテルの部屋に戻った。

2007.11.29 (Thu)

この日は、会議のテクニカル・ツアーの日である。今回の会議では 3 つのテクニカル・ツアーが用意されていたが、YEAFFEO に参加した若手グループは全員「Ship Building Tour」というツアーに参加することになっていた。集合場所は、まるで遠足に行く前の子供が集まっているような雰囲気となった。

3 台のバンはホテルを出発し、しばらくしたところでパトカーと合流した。この会議は国を挙げての一大イベントなので、テクニカル・ツアーはパトカーの先導つきである。昨日、ディスコで遅くまではじけていた人が多いためか、今日のバンの中では眠っている人が多かった。1 時間ぐらい山道を延々と走ったのち、ようやく「Tsuneishi Industry」という日本の造船所に到着した。

造船所内部では撮影禁止とのことで、入口近くで写真撮影時間が設けられた。ここぞとばかりに T シャツの色別、国別などで集まってあちこちで写真撮影が始まり、とても楽しい時間となった。

続いて、工場の中の会議室に入って Tsuneishi Industry の会社概要の説明ビデオを見せていただいた。質問はありますか、と言われた途端、次々に 10 人ぐらいが手を挙げて質問をした。何かを聞いて持ち帰ってやるうという積極的な姿勢は、見習うべきであると思った。

続いて、再び場所を移して実際に造船を行っている現場でまた写真撮影タイムとなった。

Tsuneishi Industry の技術力の高さを学んだところでテクニカル・ツアーは終了となり、再びバンに戻ってセブ島内を移動することになった。

行き帰りのバンの中で近くに座った人と各国技術士会の青年委員会の組織体系について話した。日本の事例として、一部のメンバーは毎日メールの交換をして委員会の運営について提案したり、毎回例会に参加するなど「Very Active」に活動しており、残りのメンバーは仕事の合間を縫ってまああまの頻度で活動に参加できているが、本当に時間のない人は活動にあまり参加できていない、といった説明を試みた。マレーシアなどの活発な国はすごく組織力があるようなので感心した、というコメントを出したところ、マレーシアと香港の委員長が一斉にこちらを振り返って「いやあ、どの国でも same, same. 同じ状況だよ。Very active な人材は大体ここに来ている一部のメンバーだけ

さ。」と言った。

つまり、YEAFFEO の会議に参加している人は、各国の Very active な一部の技術者の集まりということである。だから、ここに来ている人とは心から価値観を共有できる。誰かの発言に対しては、みんながすぐに心から同意できる。このメンバーのチームワークと連帯感は、ここから来ているのだと思った。

その後も話は尽きなかったが、バンは無事にホテルに戻ってきたのでテクニカル・ツアーは終了となった。

今日は、17:00 からの Closing Ceremony のあと、19:00 からフェアウェル・パーティが行われることになっている。最後に、各国が何か出し物をしなければならない。

日本人でこの会議に参加しているのは、私以外に 3 名おられた。お揃いのハッピーを日本のユニフォームとして使った。他国はというと、それぞれ民族衣装などに着替えて非常に派手なパフォーマンスを披露した。

日本チームは、「見上げてごらん夜の星を」を最初に歌い、途中にカラテの板割りを披露し、最後に「ザワワ」の歌をアカペラで歌って終わることにした。

パーティが終了したかと思いきや、「Dancing Time」が始まった。昨日のディスコのステージで歌っていたグループが今日はパーティ会場に来て、会場は一瞬にしてディスコ状態になった。

こうなったら、昨日の勢いそのままに若手グループが一斉にステージに繰り出し、みんなで爆笑しながら踊った。1 時間ほど経過したところで、さすがにみんな疲れたのか小康状態になった。私は、近くにいる人と写真を撮影したりして最後の別れを惜しんだ。

そして、いよいよ体力も限界に近づいたと感じて、夜中の 0 時を回ったところでホテルの部屋に引き上げることにした。最後に、周囲にいた YEAFFEO メンバーと Hug をして別れを惜しみ、今後も交流を続けていくことを約束して会場を後にすることにした。

4 日前に一人で成田空港からマニラに向かうときには、会議の最後にこのような気持ちになるとは想像もしていなかった。そして、今回の会議に参加して本当に良かったと思った。

私には、なぜこのメンバーたちとすぐに打ち解けて心を許しあえる関係になれるのかが分かるような気がした。たった数日間の間でこれだけ大勢の人と交流するわけであるから、一人ずつと話す時間など本当に限られている。だから、第一印象や少し話してみた感覚だけでその人が魅力的な人間か、価値観が合うかどうかを判断しなければならない。このような場では自分の人間性の一部分しか見せることはできないし、また逆に、相手の人間性の一部分しか見ることができない。しかし、その一部分にはその下にある氷山の残りの部分が凝縮されており、互いにそれを感じ取って心を許せる相手と判断しているのではないだろうか。

つまり、その場だけを取り繕って氷山の一角だけを良く見せようとしてもすぐに見破られてしまうし、また、いくら良いものを持っていてもそれを相手に伝えるためのコミュニケーション能力がなければ気づいてもらうことができない。国際社会で通用する人間性とそれを発揮するコミュニケーション能力が両方そろった人材が集まっているからこそ、このような短い期間で互いに心を通わすことができるようになるのではないかと思う。

私は、日本人の若手にこのことを伝え、ASEAN 諸国の若手技術者と対等にわたりあえる日本の

若手技術者を育てたいと強く感じた。

それにしても、ASEAN 諸国の若者のパワーを見せ付けられた 1 週間だった。

(あとがき)

短い期間であったが、この 1 週間、朝から夜中まで YEAFEO メンバーの若さとパワーについていくためテンションをあげっぱなしで臨んだためか、さすがに疲れがでた。今回の会議における主な成果を下記の通りまとめる。

・ 日本技術士会青年委員会の活動内容を広く ASEAN 諸国にアピールし、今後も国際活動にも積極的に取り組んでいくという姿勢を示すことができた。

・ 香港 Engineering Association との関係を強固にし、来年夏から秋にかけての日本技術士会青年委員会の訪問を受け入れていただけるよう、香港の青年委員長と約束を取り付けた。

・ オーストラリアの次期青年委員長の女性エンジニアとのパイプを構築し、日豪の青年委員会の関係を強化した。

・ フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポールなどの若手層とのコンタクト・ポイントを構築し、今後の日本サイドの体力および予算の状況に応じて豪州・香港に続く 2 国間交流を開始する準備が整った。

・ ASEAN 諸国の青年委員会の活動内容から、「Young Engineers Committee」の活性化について日本でも参考にできそうなことをいくつか学んだ。

技術士会の活動は無報酬で行っているものであるため、参加する人々それぞれに自己研鑽、自己啓発などのメリットがあり、さらに活動に参加すること自体が楽しいものでなければ活動は活性化しない。一部の Very active なメンバー自身が活動を心から楽しみ、その人間的な魅力で若年層を引っ張っていくような勢いと真のリーダーシップが必要であると感じた。

また、YEAFEO に出てくる各国の主力層は優秀な人材ばかりで、みな社交的でパワフルであり、国際感覚に優れていた。日本においても、国際社会で堂々と渡り合える若手の育成が急務であると感じた。

最後に、日本の H 間さん、D さん、S さんには旅先でいろいろとお世話になったので、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思う。また、出張期間中ずっと運が味方してくれたことに改めて感謝したい。



YEAFEO Board



日本技術士会青年委員会の活動説明



フィリピン代表者と



マレーシア代表者と



カラオケボックス「KTV」にて



CAFEO-25 オープニング



テクニカル・ツアー



フェアウェル・パーティ

青年技術士への期待：(持ち時間が少ない)シニア技術士のモノローグ

防災支援委員会、日韓技術士交流委員会 技術士(建設)宮原 宏

1 青年期技術士の強み

自分の理想的な生活の構築途上にある人達は常に輝いていて欲しい。技術を生業とする大人として晴れて「技術士」を名乗れるのは努力の成果であり一定の社会的な評価が得られて喜ばしい。青年の強みは将来に向けての多くの時間を保有していることである。その時間は諸先輩が築いた有形無形の資産を十分に活用できるし多彩な道が横たわっている。また情報化時代を担う技術者として必須のIT・PCのリテラシーを備えている。日常的に不具合な事項があれば直ぐにリセットできる柔軟性も持ち合わせ相応の復元力も備えている。目の前の未来には子育てや家のローン返済やその他に社会貢献の義務がある。

技術士として健全な形で私益・共益・公益の確保のためにリスクを恐れずに能動的に活動して欲しい。多くの人は自分の生き方の理想を掲げて暗黙のうちに適度な「P・D・C・A」を日常しているものと思われる。即ち、P柔軟性を備えた確かなプラン、D機を逸しない行動、C一人よがりでない冷静な評価のフィードバック、A社会へ向けての成果を問う働きかけなどである。

日本は高度に発達した情報化社会であり市民は平等意識が強く多様な価値観をもって勝手に行動できる。社会の動態は非線形で如何なるプログラムを用いても予測は困難であると考えている。人間として何処に照準を合わせて行動するか悩ましいが、拓く未来の設計図は自らが描かなければならない。設計図の基本は自分の存在価値を可視化する座標軸を設定して対応すれば一筋の光が見えてくるのではないかと思われる。

設計の主題は地球上の万人のために有用な「価値」の創出とする。自分で考える確かな時代認識の下に独創性高く柔軟性を武器として行動続ける覚悟があれば明るく輝ける。

2 PEであることの誇り

青年技術士の多くは企業内で活動していると思われる。世間一般のプロ(専門家、芸能人、スポーツ選手)などはその活動をもってしかるべき報酬を得る実力の世界で生きている自立した存在である。技術士も創出できる社会的な価値を明確にして報酬を得る存在であることが望ましいと考える。それには自分の能力をもって独自の知と技を動員して知的所有権を多く創出することが有効である。ものつくりの世界で独創的な価値を創出する者はいつの時代でも最初は孤独なマイノリティである。前例や実績のないものは評価されなく時には変人扱いされ疎外されることもある。認められるまでには時間がかかるかもしれないがそれを恐れることはない。前例や実績が不明なところに:ぞくぞく、わくわく心高めて試みる価値があるはずである。これを可能にするのが若さである。

社会が一種の安定状態になると必要とされる改革であっても先送りされ実行されない。そんな中で事件が起きると様相は一変するが当面は目先の対応で済まされることが多く抜本的な改革は連続性の理由で多くが先送りされる。日本の社会では掛け声はあるが基本的には改革を好まない保守的である。このような世界で豊かに生きてゆくには目には見えないがいくつもの「カベ」を超えなければならない。

ところで社会現況は自然の大気のように変動していて企業の存続も永遠とは限らない時代になっている。親亀がこけても子亀・孫亀がこけない用心がいる。

雇用されている技術士が企業を脱藩するには相当な覚悟がいる。他社からスカウトされるくらいの実力者は関係ない。一般的に人間の青年期には既得権は無いといえる。先の国会でホワイトカラーエクゼンブション法案が上程されなかった。これを残念と考えるかどうか皆さんに問うてみたい。青年は老年と較べ利害の絡みが少なく水垢が付いていないクリーンな強みがあり改革の主役である。時代のキーワードはあらゆるもののイノベーションである。

3 時代の先駆者を目指せ

歴史的には「もの」づくりの仕事は権力を持つ支配者が奴隷に課す強制労働であった。現代は支配者と奴隷の関係は変貌した。新たな「もの」の創出は多くの価値を生み出し、科学技術が発展し文明と芸術文化の発達を促し人間世界を平準化して現在がある。主人は一般市民で奴隷的な存在はないといえる。話を戻すが科学技術は人間に有用な面と逆な面を併せ持つので誤りない適用が求められる。特に技術専門家の活動は社会的に大きな影響力を持っているので公益優先の高い倫理性が求められるのは当然である。技術の高度化は専門細分化と係わり深く専門家の能力の水準も螺旋状に絶えず上昇する。現代社会は高度に複雑な社会構造になっているが基本は三権分立の民主主義の下に「法治」で機能している。法律は完全なものは制定できなく限界がある。法は一旦成立すると利害関係を固定させ一定の秩序をももたらす。社会事象のスピードが速く機能不全になることもある。

技術士としての課題は「技術士法」を過去に捉われることなく、行政府（役人）だけに頼るのでなく技術士自らが抜本的に見直すことが望まれる。技術士会 50 年の中で幾度となく技術士の知名度、認知度が低いことのボヤキを聞いてきた。私はぼやきの意味は現行の「技術士制度」や活動に対して社会が下した評価であると受け止めている。

現状を打開するには自前で起案する技術士に係わる新法を考える時（サンセット・サンライズ）が来たと考える。諸先駆者の功績をむげにするのではなくその延長上に世界に通用する「職能法」として仮称「プロフェッショナルエンジニア法」の制定を目指して早急な対応が必要であると考え。幾つかの構想がある。中心は業務特権付与と責任限界である。弁護士の世界では企業内弁護士会と専門弁護士会を持ち社会のニーズに適合するように互いに専門家として協調して住み分けている知恵がある。

青年委員会は自分の将来の理想的な技術士のあり方「基本設計図」を描き未来を切り拓く時ではないかと思われる。関心を持つ人材を広く公募して新たに「法制委員会」を設置することをお勧めしたい。自らが動かないと何も生まれないしまた変革もできない。これまでに類似の議論も有ったかもしれないがよく分からない。

青年委員会に託される課題のひとつに理工系の若者が継続してくる社会の仕組みの創出がある。蛇足だがチャップリンの残した言葉を思い出した。失意の中で不安を抱えた若きバレリーナーに掛けたやさしい言葉、不安な未来には「希望」と「勇気」と「サムナー」を持ちなさい。時代の先駆者は 1 人の創意、日常の貴重な体験から贈り物をくれる。少し歴史を経てから評価される。

以上

【 メ ン バ ー 紹 介 】

青年技術士交流実行委員会

役職	部門	氏名	担当
委員長	化学	時合健生	総括
副委員長	衛生工学	掛川昌俊	支部交流総括、国際交流(豪州)
副委員長	建設	新井靖典	研鑽総括、国際交流(香港、豪州)
副委員長	建設	倉井真里	国際総括
副委員長	情報工学	中嶋幸宏	シンクタンク総括、支部持ち回り
委員	建設	井上讓	研鑽(30代)
委員	化学	前田秀一	会計、国際交流(豪州)
委員	建設	小松秀次	広報、支部持ち回り、国際交流(香港)
委員	化学	平野輝美	国際交流(日韓)
委員	電気電子	内藤竜治	国際交流(日韓)、支部交流
委員	建設	松本正人	国際交流総括
委員	上下水道	五座由洋	支部交流、研鑽(40代)
委員(*1)	建設	田村裕美	広報、50周年記念誌、研鑽総括
委員(*1)	電気電子	今野明	国際交流(香港)
委員(*1)	電気電子	石関学	テクノ本部総括、広報
支部委員	北海道(建設)	椿谷敏雄	テクノ、シンクタンク、支部持ち回り
支部委員	東北(建設)	佐々木貢	シンクタンク、支部持ち回り
支部委員	北陸(応用理学)	堀田亨	シンクタンク
支部委員	中部(建設)	濱田常雄	シンクタンク
支部委員	関西(建設)	大氏正嗣	シンクタンク
支部委員	中国・四国(上下水道)	中田圭吾	シンクタンク、支部持ち回り
支部委員	九州(建設)	山田伸雄	シンクタンク、支部持ち回り
委員補佐A	機械	中嶋秀朗	研鑽(見学会)
委員補佐A	化学	苔井重和	
委員補佐A	北海道(建設・総合)	丹治和博	テクノ総括、シンクタンク、支部持ち回り
委員補佐A	中部(建設)	幡野貴之	シンクタンク、支部持ち回り
委員補佐A	機械	喜多和	
委員補佐B	応用理学・農業	柳澤 剛	研鑽(40代)
委員補佐B	経営工学	鈴木史人	広報、テクノツーリズム、研鑽(30代)
委員補佐B	化学	長内沙織	国際交流(香港、CAFE0/YEAFO)
委員補佐B	建設	鈴木圭司	広報、会計
委員補佐B	情報工学	井口慎也	広報、研鑽(見学会)
委員補佐B	化学	町野泰久	研鑽(人材交流)
委員補佐B	上下水道	西角井造	研鑽(人材交流)
オザ-バ-	上下水道	吉田均	国際総括

*1:担当委員

委員補佐A:技術士

委員補佐B:技術士補

【 そ の 他 活 動 報 告 】

支部共通パンフレット作成活動報告

支部共通パンフレット作成について

青年技術士交流実行委員会の特徴として、北海道、東北、北陸、中部、近畿、中・四国、九州の各支部の青年組織との連携がある。この横のつながりを活かし、全国の活動状況を効果的にアピールすることを目指し、全支部が利用できるパンフレットを作成することとなった。

作成メンバーは各支部の若手技術者で構成し、現在の青年組織の活動を深く理解することに努め、次世代を背負うべく一致協力して取り組んだ。

活動状況

2007年11月 活動開始

2008年1月 概要版完成、1次試験合格者歓迎会にて配布

2008年6月 支部共通パンフレットダイジェスト版完成

作成メンバー

リーダーは井口氏。

支部名	氏名	部門
北海道支部	川島由載	建設部門、応用理学部門、総合技術監理部門
東北支部	加藤靖広	建設部門、技術士補（環境部門）
本部（関東）	井口慎也	修習技術者（情報工学部門）
	田村裕美	建設部門
	石関学	修習技術者（電気電子部門）
	鈴木史人	修習技術者（経営工学部門）
北陸支部	森照代	環境部門、建設部門
中部支部	武藤真一郎	技術士補（情報工学部門）
近畿支部	一花裕一	技術士補（化学部門）
中・四国支部	中田圭吾	上下水道部門
	荒本達也	建設部門
	新淵大輔	修習技術者（環境部門）
九州支部	伊藤英忠	技術士補（応用理学部門、環境部門）

今後の予定

- ・ダイジェスト版の英語版を作成。
- ・更に内容をブラッシュアップし、引き続き豪華版を作成していく。

次ページ以降に、概要版及びダイジェスト版を添付する。

青年技術士と青年委員会

- ・本委員会は、会員間の懇親と交流を活性化することを目的に、技術士会の若手層で構成された会です。
- ・技術士のなかでも若い人達(青年技術士)が集まって交流・活動しています。
- ・実務面で最もあぶらの乗り切った世代が広く参加できるよう、年齢制限は45歳以下です。
- ・技術士会同様、全国に支部があります(北海道支部、東北支部、北陸支部、中部支部、近畿支部中・四国支部、九州支部)。

活動実績

- ・海外交流成果発表会
(日韓会議参加、オーストラリア/韓国青年技術者との交流会、等)
- ・若手技術者向け例会
(若手技術者講演会、コミュニケーション研修、ディベート入門、等)
- ・見学会
(八景島シーパラダイス、アサヒビール茨城工場、等)
- ・支部交流会
- ・専門家による講演会
⇒等々、多数開催。

詳細はWebをご覧ください。



Webアクセス
はこちら



活動方針

- ・技術士会主催イベントの企画などへの積極的な参画、協力。
- ・研鑽事業の企画・実施。
- ・日本技術士会各支部の若手技術者層グループとの交流会の主催。
- ・国際交流の実施。

参加の利点

- ・人脈構築/情報交換
- ・同世代の技術士(補)と親しくなる機会ができます。
- ・他分野の技術士(補)と交流できます。
- ・全国の技術士とのネットワークをつくれます。
- ・最近2次試験に合格した技術士の試験体験談が聞けます。
- ・実務能力の研鑽
- ・様々な会員、一般向けイベントの企画・実行などを通して、実務面での研鑽ができます。



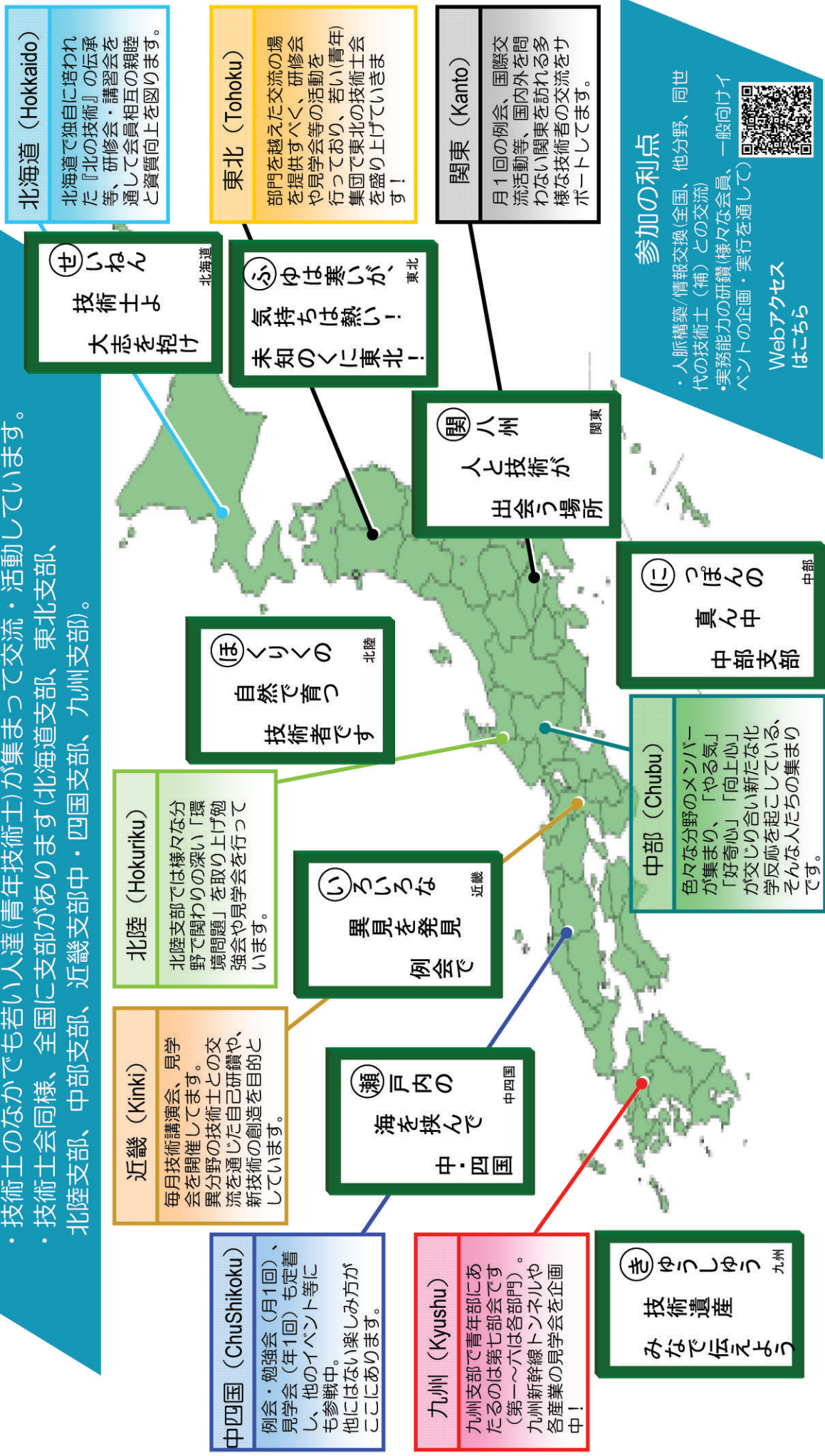
今後

技術士、技術士補が気軽にコミュニケーションがとれる場を提供する、オープンで参加しやすい組織を目指していきます。

まずはイベントへご参加ください!

日本技術士会 青年委員会

- ・本委員会は、会員間の懇親と交流を活性化することを目的に、技術士会の若手層で構成された会です。
- ・技術士のなかでも若い人達(青年技術士)が集まって交流・活動しています。
- ・技術士会同様、全国に支部があります(北海道支部、東北支部、北陸支部、中部支部、近畿支部中・四国支部、九州支部)。



参加の利点

- ・人脈構築/情報交換(全国、他分野、同世代の技術士(補)との交流)
- ・実務能力の研鑽(様々な会員、一般向けイベントの企画・実行を通して)



Webアクセス
はこちら

支部共通パンフレット ダイジェスト版 (裏)

全国大会

07年度(福井大会): 青年分科会: 「青年技術士の集い」を開催し、85名の参加者を集めました。
08年度(松江大会): 10/17(金)~18(土)に実施予定です。

研鑽活動

07年度後期より、以下の6分野7コースによる研鑽活動の提供を実施、計画しています。
ビジネススキルアップ(6回)、マネジメント講座(6回)、技術者倫理シリーズ(4回)、交流イベント(6回)、国際交流(2回)、見学会(4回) (括弧内の回数は、07年度後期~08年年度の実績・計画数の合計)

支部交流活動・支部交流研修会

毎年6月に東京で開催しています。本支部での取組みの報告、今後の方針を検討・確認します。また、本支部での行事の相互参加なども実施しています。08年度は、理科教育の取り組みとともに、オーストラリア技術士の訪問もあわせ、国際交流も行います。



テクノツーリズム

地域性を活かした伝統産業や技術動向を紹介し、技術者がガイドブックとしての活用を目的として活動を始めました。理科教育や技術者の話題提供、交流の場として利用できるような活動を推進します。



国際交流活動

CAFE0/YAFE0

毎年、ASEAN構成国との交流を行い、技術者会議 CAFE0(Conference of ASEAN Federation of Engineers Organizations)及び若手会議YAFE0 (Young Engineers of AFE0)へ参加している。これらをきっかけとして、各国との新たな交流の発展に発展してきております。

日韓交流

日韓技術士会議は37年の歴史を持ちます。韓国技術士会青年委員会との共催で、05年度より青年分科会と親善サッカー大会を継続的に運営しております。08年度は、9月に新潟で行います。

オーストラリア交流

06年日豪交流年を機に、日豪若手技術士のネットワークの構築と日豪ビジネスにおける利益増進を目的にオーストラリア青年技術士会との交流を開始しました。07年度は青年委員会から2名の技術士をオーストラリアに派遣、08年度はオーストラリアから訪日します。

香港交流

07年度、ICEHKA(Institution of Civil Engineers Hong Kong Association)から若手技術者が来日し、東京での緑化視察及び技術セミナー、交流パーティを実施。08年度夏には香港での交流を計画しています。



ITコミュニケーション

ネットミーティング

青年委員会では、毎月、定例会、運営員会を行っています。各支部で行っている活動を有機的に結ぶために、インターネットを利用し、本支部間での共催を試みています。来年度から本格運用に移る予定です。

Blog

最新情報をBlogを用いて発信しています。
<http://blog.goo.ne.jp/seineniinkai>

Web

青年委員会の活動内容・報告を発信しています。
<http://www.engineer.or.jp/cmtly/seinen/>